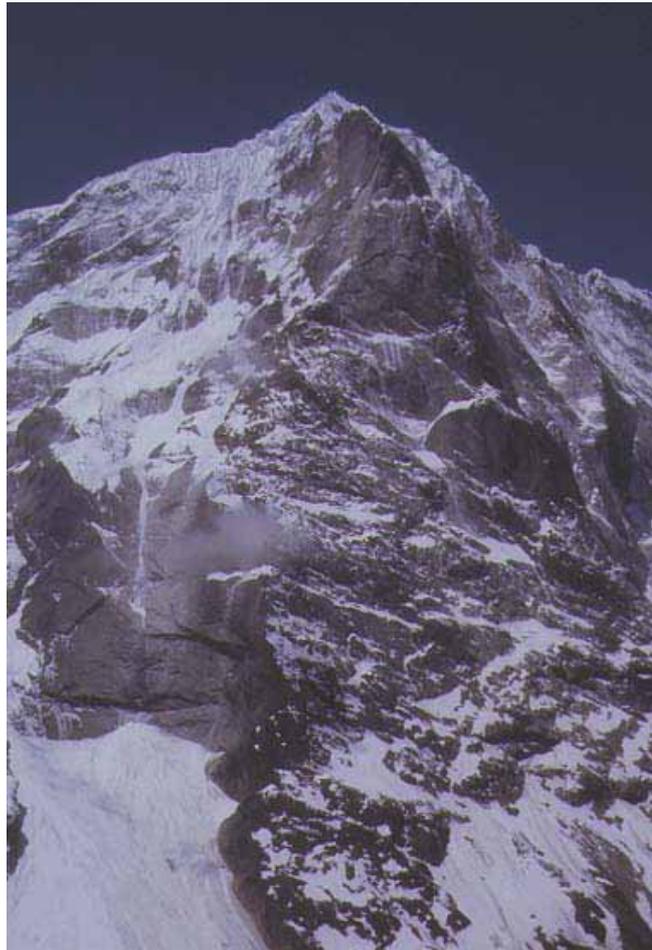


報告書

【ネパール・ヒマラヤ】

テンカンポチェ 6500m
TENKANGPOCH NE pillar



(サガルマータ国立公園 Mahalangur 山群 Rlwaling エリア)

広島メイプルピース登山隊 2005

隊の名称

広島メイプルピース登山隊 2005

目的

テンカンボチェ峰(6500m)北東岩稜の初登攀

登山の形式

ベースキャンプより上部は隊員2名によるアルパイン+カプセルスタイル

期間

2005年4月10日～5月25日 (約45日間)

隊員構成

名越 實 (なごしみのる)

1948年8月生まれ

所属：広島山岳会、日本山岳会、日本ヒマラヤ協会、広島ブータン共会、他

登山歴：バルナジ、クン西壁、ウルタル、チョモランマ、アクタシ南壁、フリーガ(バフィン島)

係：隊長、装備、渉外、タクティクス、他

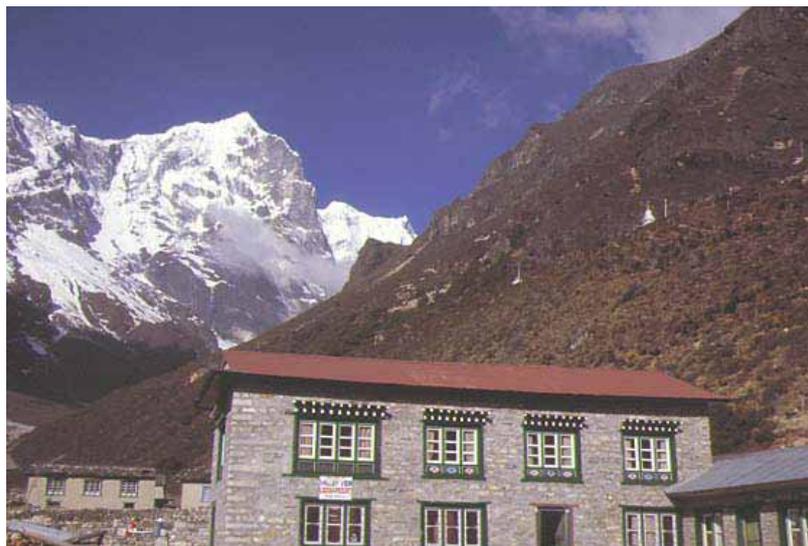
松島 宏 (まつしまひろし)

1952年5月生まれ

所属：広島大学山の会、日本山岳会、日本ヒマラヤ協会、広島ブータン共会、他

登山歴：ノーストライド、コルケクルス6(ペルー)、ハンテングリ、ポベータ、ツラギ、ブンギ

係：副隊長、食料、医療、渉外、輸送、他



ターメからのテンカンボチェ

ご挨拶

広島メイプルピース登山隊2005隊長
名越 實

以前からネパールの山に登りたいと思っていた私は、当時未踏のアンナプルナ3峰南ピーラーに狙いをつけ、2003年秋偵察に行く準備を進めましたが、一人でセティ河のジャングルに入るのはこの時期あまりにも危険（そこはマオイストや強盗の巣になっていた）ということで出発直前治安の安定しているクーンブエリアに変更しました。

世界で最も知られたエベレスト街道沿いでも、新しく解禁された魅力的な山が沢山あります。その中からピーク43（キャシャル）とテンカンポチェあたりの偵察を行いました。偵察から帰り、ピーク43も、アンナ3峰南岩稜も、私の訪れる少し前に登られてしまっていたことを知り、目標をテンカンポチェに絞りました。アルパインクライミングのできるそれなりの体力と技量を持った人に声をかけたところ、春にネパール遠征から帰ったばかりの松島がパートナーを買って出てくれました。

それからは2004年秋の遠征実施を目指して、二人での集中的なトレーニングを重ねていましたが、7月に私が不注意から岩場で墜落し怪我をしたため、半年遅れの今年4月の出発となりました。

皆様にご期待いただき、多くの支援をいただいた遠征でしたが、結果は先日のNHKテレビまたはナムチェバザールよりの報告でご存じのとおり、壁の1/3までも届きませんでした。

ルート工作をして岩壁に張り付いた次の日の午後から猛烈な吹雪となり、快適な岩登りが出来たのはわずか半日でした。壁の上部がオーバーハングしているような岩壁では、通常雪が降ってもチリ雪崩程度ですがこの壁は違っていました。日に照らされて暖められた壁に湿った雪が付着し、壁の全てを8センチ程度の雪がカバーしてしまいました。そのカバーの下は融けた水が流れており、ピッケル

もアイゼンも全く役に立たないことは言うまでもないのですが、湿り雪の結構大きな雪崩が壁の至る所で発生しました。

壁の直登を諦め、雪のバンドを左右にたどって行くルートを取らざるを得なくなった私たちはロシアンルーレットの毎日となりました。自分ながら旨くビバークサイトを選らんでいたのが飛ばされるようなことはありませんでしたが、それでも3度ほど小さい雪崩にポータレッジが襲われました。毎日降雪が続き、まったく動けない日も3日、1日3mや8mの日もありました。

ビバーク11日目、なんとか標高差で400mを稼ぎ、北東壁に回り込んで見たものは、一步も踏み込めない雪崩の爆発する巨大な氷の樋でした。過去の隊がこの時点で引き返した意味が判りました。後でコックに聞くと、この北東壁の雪崩の爆風は、川向こうのベースキャンプまで届いていたとのことでした。

登頂はおろか北東岩稜の完登もありませんでしたが、予想をはるかに超えた絶悪の状況において持てる力のすべてをつくして戦ったことに満足しています。それに時折顔を見せる30キロ北の国境稜線に連なる巨峰群（チョオユー、エベレスト、ローツェ、マカルー等々）の眺めは息を呑む迫力でした。

そして何よりも、雪崩の巣窟となったあの北壁から二人が生きて帰れたことを心から神に感謝しています。

皆様のご支援、御協力それに暖かいエールの数々に満腔の感謝をささげ、ここにご報告いたします。

ありがとうございました。

2005年9月1日

広島メイプルピース登山隊 2005 行動記録

ネパール テンカンポチェ峰 (6500m) 北東岩稜

最高到達点 北壁 5100mまで

| | | | |
|----|------|---|--|
| 1 | 4/10 | 日 | 広島発 関西国際空港 プーケット バンコク 経由 |
| 2 | 4/11 | 月 | ネパールカトマンズ着 コスモトレック (エージェント) 訪問 ガイド顔合わせ (コック: ダウ・ラマ) |
| 3 | 4/12 | 火 | 取材・買出し 宿舎 富士ゲストハウス (タメール) |
| 4 | 4/13 | 水 | 観光省訪問、登山許可正式取得、リエゾン決定 (ジャヤラム・シュレスタ) |
| 5 | 4/14 | 木 | 旧正月 2062年1月1日 (休日) |
| 6 | 4/15 | 金 | 買出し |
| 7 | 4/16 | 土 | カトマンズ (フライト) ルクラ 2840m パグディン 2800m モンジョ 2900m |
| 8 | 4/17 | 日 | モンジョ ナムチェバザール 3440m シャンポチェ 3720m ナムチェバザール 3440m |
| 9 | 4/18 | 月 | ナムチェバザール シャンポチェ プルテ タモ 3480m ターメ 3800m テンポ 4300m |
| 10 | 4/19 | 火 | BC建設 (隊荷到着) |
| 11 | 4/20 | 水 | 松島 完全休養 名越 高所順応トレ (4600m往復テシラブチャ方面) |
| 12 | 4/21 | 木 | 松島 高度順応トレ (4600m往復テシラブチャ方面) 名越休養 |
| 13 | 4/22 | 金 | 午前中 壁取り付き 4750mまで荷上げ (登攀道具など) 午後休養 |
| 14 | 4/23 | 土 | 午前中 壁取り付き 4750mまで荷上げ (食料・テント) 4880mまでルート工作 (60m x 3ピッチ) |
| 15 | 4/24 | 日 | 午前中 壁取り付き 4750mまで荷上げ (最終) |
| 16 | 4/25 | 月 | 完全休養 |
| 17 | 4/26 | 火 | 完全休養 (トレッキング隊 BC訪問 一緒に昼食) |
| 18 | 4/27 | 水 | Goup (壁に取り付く) 荷上げ 200m テント 4880mまで 午後8時までかかる |
| 19 | 4/28 | 木 | ルート工作 50m (松島がリード) 降雪のため中断 雪は午後9時まで降り続く |
| 20 | 4/29 | 金 | 完全休養 (降雪、雪付着のため動けず) |
| 21 | 4/30 | 土 | ルート工作 3m (名越) |
| 22 | 5/01 | 日 | 降雪のため待機状態のまま (荷物整理 休養) |
| 23 | 5/02 | 月 | ルート工作 8m (松島) ビレイ点作成 |
| 24 | 5/03 | 火 | 雪のルンゼにルート工作 3ピッチ 180m (名越) 非常に危険、かつ困難 ビレイ点作成 |
| 25 | 5/04 | 水 | 雪田トラバース ルート工作 3ピッチ 180m (松島) ビレイ点作成 |
| 26 | 5/05 | 木 | 5050mに荷上げ テント上げ 降雪のため名越到着午後8時前となる |
| 27 | 5/06 | 金 | 降雪と疲労のため完全休養 |
| 28 | 5/07 | 土 | ルート工作 (名越) 撤退決定 (北壁から東壁に) 3ピッチ 100m テントに帰還途中名越雪崩に飛ばされる |
| 29 | 5/08 | 日 | BCに下山、荷下ろし |
| 30 | 5/09 | 月 | BCにて完全休養 |
| 31 | 5/10 | 火 | BCにて完全休養 |
| 32 | 5/11 | 水 | 名越・隊貨 (BC ターメ) 松島ナンパラ方面トレッキング (BC ターメ 3800 ナンパラ方面 4890m) |
| 33 | 5/12 | 木 | 名越 (休養) 松島 (4890m 5300mナンパラ手前 4km ターメ 3800m) 午後8時到着 |
| 34 | 5/13 | 金 | ターメ ナムチェバザール 午後休養 |
| 35 | 5/14 | 土 | 名越・隊貨 (ナムチェバザール ルクラ) 松島 完全休養 翌日からエベレストBC方面トレッキング |
| 36 | 5/15 | 日 | 名越 (ルクラ カトマンズ 荷物整理 ｲﾝﾀﾞﾙ受) 松島 (ナムチェバザール トウクラ 4600m) |
| 37 | 5/16 | 月 | 松島 (トウクラ エベレストBC 5300m ペリチェ 4280m) 名越 観光省にて遠征終了手続き |
| 38 | 5/17 | 火 | 松島 (ペリチェ ナムチェ ルクラ) 名越 コスモにて荷物整理等 |
| 39 | 5/18 | 水 | 松島 (ルクラ カトマンズ) 名越 カトマンズ滞在観光 |
| 40 | 5/19 | 木 | 完全休養 |
| 41 | 5/20 | 金 | カトマンズ ポカラ (バス), International Mountain Museum (山岳博物館) 訪問 |
| 42 | 5/21 | 土 | ポカラ滞在、サランコットの丘 1592mトレッキング (アガパ・ダウキリ山群 素晴らしい眺め) |
| 43 | 5/22 | 日 | ポカラ カトマンズ (バス) |
| 44 | 5/23 | 月 | 買い物等 |
| 45 | 5/24 | 火 | カトマンズ バンコク |
| 46 | 5/25 | 水 | バンコク 関西空港 広島 |

各係報告

< 渉外 >

ネパールの登山に関しては、データや知識が不足していたので、3年前にアンナプルナ峰南ピラーを調べ始めた時点から多くの方にお世話になった。

「岩と雪」が刊行されているときは各地域の入山情報はほとんど網羅されており95年頃までのデータはまず問題なかった。それ以降のデータは日本語では「ロック&スノウ」と「ヒマラヤ」しかなく、ソース元である日本山岳協会の中川さんや、現在ネパールの山岳研究と登山の第一人者である大阪山の会の大西さんから多くのことを教えていただいた。特に大西さんにはカトマンズ在住のミス・ホーリィと、コスモトレックの天津さんを紹介していただき、大変助かった。

登山規則や、オープンピークなどに関しては日本ヒマラヤ協会の会報「ヒマラヤ」に新しい情報が載っており、それを基本データにしてNMAのホームページから英文の最新レグレーションなどをダウンロードして山の絞り込みをしていった。



アンナ 峰南ピラー (サランコットより)

文献としては(アンナ 南ピラーとテンカンポチェに関しては)AAJが役に立った。このたびの隊員二人が所属している日本山岳会にバックナンバーが揃っており、何度かコピーをいただいた。

ミス・ホーリィとはFAXや手紙のやりとりで、両峰の正確な入山情報を知らせていただいた。

03年秋の偵察についてだが、結局アンナプルナ方面を諦めてエベレスト街道まわりに変更したのはひとえに治安事情の悪さからであった。

当時(今もか?)アンナプルナ連峰南側のマチャブチャレ東に広がるセティ川源流域ジャングルはマオイストと強盗の支配するエリアで、「大人数の遠征隊ならいざ知らずたった一人での入域は自殺行為に近い」との各方面からのアドバイスであった。

エベレスト街道方面の偵察は、ルクラから出発し、まずモンジョから東のキャシャルコーラに入り、(ソルクンブーエリア)PK43(キャシャル)のBCまで往復した。街道から外れるのももちろん土地の人以外誰にもあわないすばらしいトレックだった。



キャシャルコーラよりのPK43

ついで街道をターメ方面(ロールワリンエリア)にとり、パルチャモBC手前のバッチェ(3ヶ月前に建てたばかり)まで行き、テンカンポチェ北東ピラーの偵察をした。さらにペリチェまで足をのばし、ロブジェ東峰東壁の偵察をしたかったが、ガスで何も見えなかった。

帰国して翌年の冬「ロック&スノウ」により、アンナ 南ピラーがイギリスとアメリカの合同隊に、PK43はイギリス他の合同隊に、私が訪れたすこし前にどちらも初登攀、初登頂されたことを知った。

こうなるともう後はテンカンポチェしかない

というか、この山が氷河もなく一番取り付きやすく危険も少なそう（に思えた）なので、第一目標にした。



P43より *テンギ*、*チ*、*チ*、*チ*、*チ*

今回も多くの方から温かい支援をいただいた。その他、装備では広島のカライミングショップ「ヤッホー」が献身的な協力してくれた。JACからは海外登山基金より30万円の助成を受けた。

同じJAC広島支部の杉村医師から医薬品を寄付していただいた。

東広島の(株)サタケから食糧の「マジックライス」を、明治乳業からサプリメントの「アミノフィット」「BGS」等をいただいた。安佐南区高取の「カメラのキタムラ」は電池類とフィルムについて協力をしてくれた。いずれも資金力のない我々にとっては強力なサポートであり、感謝に堪えない。

登山の申請や観光省との交渉、スタッフの雇用や輸送等すべてエージェントの「コスモトレック」を通じて行った。

近年の傾向である公募隊システムとネパールの政情不安を色濃く反映して、今春コスモトレックが扱う“遠征隊”(トレッキングは別にして)は我々の隊のみとのことだった。

リエゾンオフィサー：ジャヤラム・シュレスタ 国立博物館の副主事で一昨年はアンナ4峰のリエゾンをしている。非常にまじめで山が結構好きとかで、ジョシー(コスモの経営者の一人)の説得も甲斐なくBCまで付いてきてしまった。何の役にも立たなかったけど今回の遠征で最も高かついた(なんと、約30万円余!)

このリエゾンを付ける規定がどこに書いてあるか観光省で質問してみたが、誰もそれを示すことが出来なかった。我々が出国するまでにその文書が探せなかったらリエゾン費用は返却するというところまで話はいったのだが、こともあろうにコスモのスタッフであるクマールがその文書を知っていて、2002年のネパール語による通達が見つかったのである。それには「6500m未満の山にはリエゾンをつけなくてもよいことにした」とあり、残念ながら政府発表の新高度(地図では6482m)が6500mのテンカンポチェはリエゾンをつけなければならないことが確認された。ちなみに登山料は6501mからアップする規定になっている。

コック(ガイド): ダウ・ラマ(シェルパ族) ズンベジ村(ヌンブール近く、ジリから3日かかる)出身。(35才)

非常に優秀。ネパール語の他、日本語、シェルパ語(チベット語)、英語を話し、日本料理を得意とするが、ツアーリーダー並の交渉能力を持つ。ゾッキョの手配からSPCCとの交渉まですべてを行い、リエゾンの出る幕はまったくなかった。ソルクンプ地域ではかなり顔が利く。

キチンボーイ: チェーパ・シェルパ(21) 正規のコスモ社員ではないが、見習い中。

ゴミ処理供託金は当初の2000\$から500\$に変更?され、エージェントが代払いしたのでいかほど返却されたかは不明。

< タクティクス >

一昨年の偵察から“岩壁の標高差約1400m、下部北壁は50～70度のスラブ、上部北東壁は60～80度の雪壁およびスラブ、岩壁30ピッチ、6100mの肩から上の雪稜は高差400m”と想定した。

GO-UPから下山までを2週間とする。

BCから上は、ポータ等は使わずすべて二人で作業する。

ルートは荷揚げと下りのことを考えて出来るだけダイレクトに取る。雪崩を避けるためにリッジ状の所を選ぶ。

登攀スタイルはセミアルパインのカプセルスタイルとし、トップは日替り交代制とする。ビバークポイントは200mのスタティックロープの範囲内で決める。

ゴミはすべてBC(ナムチュバザール)まで持ち帰る。

ビバークにはポータレッジを使用。

荷揚げはヨセミテ方式でウォールホーラを使用。

大まかに以上のことを決め、後はいかに必要最小限の荷物にするかである。



4/18 BC到着日、雪のない壁

< 軽量化のために >

食糧はすべてフリーズドライでしかもお湯を掛けるだけで煮込まなくて済む物とする。

コッファはハンギングストープに付いている2個のみで、食器は400cc以上のマグカップ1個ずつとする。

トップのみ使うラバーソウル靴やアイスバイル、予備のアイゼン、確保器具、ライト等は1個で共用とする。

ハーケンは原則すべて抜いて再利用できるクロモリ、チタンとする。

個人装備は手袋、ソックス以外は着た切り雀とする。

電池は、BC以上は軽いリチウムとする。

< その他 >

60mおきのビレーポイントと荷揚げポイントにはボルト2本+ とする。

そのポイントには下り時の目印として赤いポリプロテープを付けておく。



雪の中からビレーポイントを掘り出す

およそ以上のようなことを考えていたのだが、ラバーソウル靴での快適な登攀は半日だけで、あと全日がベタ雪に覆われた、壁/雪のバンド/ルンゼ、の登攀となってしまう、スタイルの変更を余儀なくされた。

ビバークサイトはちょうど200mおきに最

適で安全な場所を得ることが出来て幸運であった。

登攀ルートは左右にバンドをトラバースしたりしたが、雪崩を避けるためと荷揚げ、ユマーリングのため、ルート自体はダイレクトに変更した。



被ったヘッドウォールも真っ白(5050mより)

<荷揚げについて>

最下部のパートのように緩い雪面がありベタ雪の場合は、摩擦が大きく全く動かないので、ホールバッグ数を増やしたりして軽く小分けにしたほうがかえって効率良い。

ルートがくの字になっている場合は、一気に200mはしんどいので途中で切った方が楽で効率も良いように思う。

<天候について>

結果的に天気に追い返されたようなものだが、私はシーズンと期間を間違えたのだろうか。すぐ近くにあり、データの豊富なエベレストのノーマルな登山シーズンは春と秋だが、春についていえば例年4月中旬から5月下旬である。5年前からアイスフォールに梯子を掛けて通行料を稼いでいるSPCCも、4月に

梯子を掛けて5月下旬には撤去しているから、あながち間違っているとは思えない。

それでは今年の天気がアブノーマルだったのか？今年のエベレストはどうだったか分かる範囲で調べてみた。

南のサガルマータ側(テンカンポチェ側)には41隊が入るが、5月初旬にはC1とC3が雪崩で壊滅的な被害を受けており、ようやくシーズンぎりぎりの5月下旬に何隊かが登頂している。

北のチョモランマ側も40隊300人が押し寄せたが、5月中旬まで冬の強風が吹き荒れ(私も経験しているがノースコルあたりでも富士山の突風なみの風が常時吹く)最初のアタックは5月21日で、この時期までずれ込んだのは45年ぶりとのことだった。

結局、チョー運が悪かったということか。



北東壁の雪崩れ(日高氏撮影5/7)

再度挑戦するなら、寒気と強風に耐えて天候の安定している冬季の2月か、雪が降ってもあまり影響を受けない北壁右端の北ピラーから最後に北東壁に出るルートがええと思う。北ピラーは上部に垂直以上の所もあるがスラブを斜めに登る顕著なバンドがありそれをうまく繋げば安全な登攀が可能であろう。

< 装備 >

「夏、時には冬、の岩壁登攀」という想定で、偵察時の感じと写真等で装備を準備したが、実際は「日本の5月のアルプスで毎日雨と降雪がある岩場」の状態であった。

装備として不足した物はほとんど無かったが、ポータレッジのテント部分にもう少し高い防水機能がほしかった。購入した時、完璧な防水のゴム引きテントは内側の露結がひどく、あまりに居住性が悪いので岩壁側に当たる一面を除いてあとの3面をゴワテックスに張り替えた豪華テントであった。だが残した壁側のゴムが劣化してポロボロになってしまったので、ゴムをはがし防水液を何回も塗布しておいた。しかしジッパ部分と肝心のゴワテックスが剥離した部分からテントに付着したベチャ雪が融けて容赦なくポタポタと狭いポータレッジ内を襲撃したのであった。言うまでもなくシュラフから着衣のすべてがすっかり濡れてしまい、終盤不快な冷たい夜を過ごすさなければならなくなった。

他の装備について気が付いたことを述べる。一般に冬山で使う装備はカトマンズ/ナムチェバザールのショップで入手できる。ヨーロッパからの輸入品や、今や有名ブランドの製造元であるメイドイン中国（密輸なので日本で買うのと同じ物が安い！）が手に入る。前もってショップに問い合わせ、注文しておけば最低限の荷物で出国できる。

BC以下の装備（主にキャンピング用品だが）は、すべてと言って良いくらいネパール国内で入手できる。我々のエージェント（コスモトレック社）がキャンプ用品をルクラにデポしており、テントから炊事用具の全てをレンタルした。トイレトペーパーから爪楊枝までの消耗品は、優秀なコックがほとんどルクラで調達してくれた。

もちろんほとんどを空輸しているので価格はカトマンズの倍くらいだが、カトマンズから空輸すれば1kg = 1.5\$のチャージを取られ、手間もかかるのでやめた方がいい。

パキスタンやインドと比べて遠征のアレンジメントにおいてエージェントの占める割合が大きい（と言うより、ほとんどと言って良い）ので、交渉ごとはエージェントに任せた方が賢明である。



これがポータレッジ？

登攀装備（BC以上）について：

基本的に岩場の上にベチャ雪が乗っている状態なのでアイスツール（バイルやスクリュウ）は草付き以外ほとんど役に立たない。

- ・ カム

所々中間以下（キャメの.75、エイリアンの紫、前後）が有効である。岩が柔らかいので小さいサイズ（キャメ.5以下）は怖い。

- ・ ハーケン

クロモリの薄刃が有効で、やや開いたリスには軽いチタンの厚刃（ロストアローサイズで、カトマンズで入手可）がよく利いた。（重いロストアローはBCに残置）

- ・ 登降器

湿った雪が降ると、（フィクスしている）ロープに雪が付き、きりたんぼ状になるのでユマール系のカムがまったく役に立たなくなる。唯一シャントのみが有効であった。

- ・ ホールバッグ

120Lと70Lの2個を持ち込んだがもう1個ほしかった。

- ・ ウォールホーラー

新雪が付着すると使い物にならないのでシャント、ルベルソ、TRE、等の代替えツールが必要。

ロープ類：

・登攀用メインロープ

常時9.6mm x 60mエバードライを1本使用。予備とラッセル用にもう1本準備した。

・スタティックロープ

おもに荷上げに使うのでベアールの8mm x 200mを切らずに持参。トラバースのときなどはメインロープとして使用。

尚、カトマンズで売っているものはフィクスに使用する6つ打で、柔らかく、荷上げには向いてない。

・補助ロープ

荷物がひっかかったりした時のために補助ロープ(4mm x 200m)を荷の尻に付けた。役には立ったのだが、安いクレモナとポリプロの混合ひものため雪が付いて針金のようになってしまう扱いにくかった。少々高価でもナイロンひもにするべきだった。

・ロープバスケット/ザック

このロープ類を収納するために8mm用には(デイセンターで売ってる木くずなどを入れる)60Lのバケットを、4mm用にはモンベルのロープザックを使ったが良かった。

・ボルト

ジャンピングは、岩が柔らかい(泥質片麻岩)のでリスを探してハーケンを打つのとそう時間は変わらなかった。ビレーと荷上げ支点用に120本を準備。

・ストッパ

岩が柔らかいので使わず。

・アイスハンマー

ミゾー製を2本。ハーケン/ボルト打ちが主で、時々堅雪部でピックを使用。上部雪稜用にバイルを1本準備。

・確保/下降器具

A.T.C。(8環は持参せず)ロープに雪が付くとルベルソも有効。

・アブミ

アイゼンでの人工登攀にはプレート段のものがベター。

・アッセンダー

ユマール/ペツルはロープに雪が付着すると全く役に立たない。シャントが1セット必要。(シャントとルベルソの組み合わせでも可)

・無線機

必需品。オプションマイクをヘルメットのあご紐に付けておけば便利。

・手袋

そんなに寒くなかったので、ほとんど(コンビニで売ってる冬場のチェーン取り替えなどに便利な)滑り止め生地の薄い手袋を使用した。下に絹の手袋を着けると雪があってもあまり冷たくなかった。なによりグリップがしっかりしているのでピッケルやハンマーを振るのも、ユマーリング、確保などにも有効だった。

・ガスバーナーヘッド

ハンギングストーブにはE.P.I製品を付けたのだが、カートリッジの弁を押し下げるノズル(針)が短いのかプリムスのシリンダー弁の位置が深いのか、ガスの出が悪く苦労した。(帰国してE.P.Iシリンダーに付けたら問題なかった)

・ガス

お湯を掛ければ出来る食品だけにしたので、1個(230g)/2日。

ルクラ以北のエリアでは(空輸出来ない)前もって陸路で輸送(要1ヶ月)しておく必要がある。遠征の余り物をルクラ/ナムチェのショップで探せば20個くらいは入手可能。ほとんどプリムスのシリンダー。E.P.Iは見かけなかった。バーナーヘッドはイワタニプリムス製を持参したほうがベター。

・電池

40本未満。全ての製品を単3サイズに統一し、軽く長寿なリチウム乾電池を持参。(カトマンズでは入手不可)

・コップ

ハンギングストーブと400cc以上のマグカップがあれば不要。

・マット

浸透性のないサーモスレッジ(180cm)を持参。

・おしっこボトル

1L以上のものが必要(絶対!)

・ストック

取り付きまでは必需品。

アプローチ / B C 共同装備表

共同 <アプローチ / B C >

| | | |
|------------------|------------------|--------|
| テント：4人用 | 4張 隊員、L O、コック | 現地レンタル |
| テント：6人用 | 1 キッチン用 | “ |
| 細引き 3mm | 30m テント張り綱 | 現地購入 |
| 修理キット（レーザーマン） | 1 （ペンチ、六画レンチ） | 高所併用 |
| 裁縫道具セット | 1セット 糸はポリ系 | “ |
| 軍手 | 4 | 現地 |
| 双眼鏡 | 1 | |
| 温度計 | 1 | |
| リペア / ガムテープ | 各1巻 | |
| 輪ゴム | 1箱 | 現地 |
| 石けん / シャンプー / 挟み | 適量 | 現地 |
| カッターナイフ | 1 | 現地 |
| ハイピーシート | 2枚 4m X 4m | 現地レンタル |
| ハサミ | 1 | 現地 |
| 筆記具 / ノート | 適量 物資管理など | 現地 |
| B C用無線機 / アルカリ電池 | 1 / 30個（現地調達） | |
| 電池：単3リチウム | 90 無線、ヘッドライト等 | |
| 薬、救急用具 | B C以下 | |
| マット | 4 L O、コック、キッチン用 | 現地レンタル |
| ラジオ / 時間表 | 1 短波 / ラジオ日本の時間表 | 高所併用 |

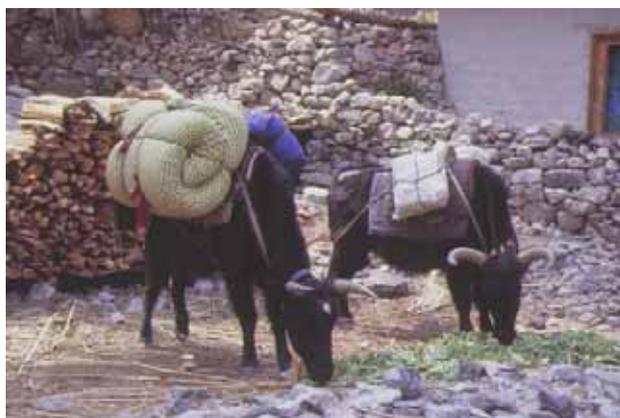


早朝、祖母と燃料のゴパツを拾うテンジン

共同炊事 <アプローチ / B C >

| | | | |
|-----------------|-----------|-------------|---------|
| コンロ | 2 | 石油用大ツインバーナー | 現地レンタル |
| ランタン、マントル | 1 | ローソクで代用も | “ |
| たわし、スポンジ | 適量 | | 現地（ルクラ） |
| ロールペーパー | 10 | | 現地 |
| タオル、布巾、雑巾 | 適量 | | 現地 |
| ライター（石着火） | 10 | 高所併用 | 現地 |
| 包丁 | | | 現地レンタル |
| まな板 | | | 現地レンタル |
| お玉 | | | 現地レンタル |
| ナベ | | | 現地レンタル |
| フライパン | | | 現地レンタル |
| ヤカン | | | 現地レンタル |
| 食器（箸、スプーン、フォーク） | 10セット | | 現地レンタル |
| | | | |
| 缶切り | | | 現地レンタル |
| 茶こし | | | 現地レンタル |
| タッパウエア | 各種（食料整理用） | | 現地レンタル |
| 爪楊枝 | | | 現地 |
| | | | |
| 燃料：灯油 | 80L | | 現地 |

炊事道具は現地（コスモ）でセットをレンタル



ゾッキョは1頭60kgを運ぶ

個人 <アプローチ/BC>

| | | |
|--------------|---------------|------|
| シュラフ/カバー | 高所併用 | |
| ストック | 1セット | |
| トレッキングシューズ | | |
| 中ザック | アプローチ、機内持ち込み用 | 荷揚げ袋 |
| 食器セット | 保温マグは高所併用 | |
| カメラセット | 電池、フィルムも個人持ち | |
| ヘッドランプ | 高所併用 | |
| マット | 高所併用 | |
| サングラス | “ | |
| ぞうり/スリッパ | | 現地調達 |
| ソックス | アプローチ用 | |
| ナイフ | 高所併用 | |
| シャツ、ズボン、軽ヤッケ | | |
| 下着 | 上、下 | |
| フリース上着 | 高所併用 | |
| 傘 | | |
| 帽子 | | |
| 時計 | 高所併用 | |
| 洗面具セット | | 現地調達 |
| 筆記具、手帳 | 高所併用 | |
| 整理袋 | 適当 | |
| 計算機 | 1 | |



共同 <登攀> (登攀距離：1800m；30ピッチで計算)

| | | | |
|-----------------|------------|------------------|--------|
| ポータレッジ | 1 | ゴア、エクスペディション | |
| ホールバック：120L/70L | 1 / 1 | | |
| クライミングシューズ | 1足 | 共同使用 | |
| ウォールホーラー | 2 | | 1個予備 |
| アイスパイル | 1 | 上部雪稜用 | |
| クライミングロープ：9.6mm | 2 | 60m(ドライ) | 1本予備 |
| スタティックロープ：8mm | 1 | 200m(荷あげ用) | |
| ロープ：4mm | 1 | 200m(連絡用) | |
| テープ：1/2袋(15mm) | 42m | 140cm X 30本 | シュリング |
| テープ：2/5袋(13mm) | 16m | 75cm X 20本 | タイオフ用 |
| スリング：スペクトロン | 2本 | 3.6m、4.2m (15mm) | 荷揚/BP用 |
| ハーケン：薄刃 | 25 | クロモリ | |
| ハーケン：厚刃 | 15 | チタン | 現地 |
| ボルト：8m | 110 | (工業用80,リング30) | |
| ハンガー | 30 | アルミ | |
| カム：キャメ/エイリアン | 1セット+6 | 1セット | |
| ストッパ/マイクロストッパ | 各1 | セット | |
| アイススクリュウ：パイプ | 6 | チタン | |
| デッドマン | 5 | 軽量化したもの | |
| カラビナ/ヌンチャク | 環付き16, | 普通60, | ヌンチャ16 |
| スカイフック | 4 | クリフ、フック、バツォ | |
| タガネ | 1 | | |
| ジャンピングセット | 2 | 8mm用 | |
| キリ | 30 | | |
| ビレイシート | 1 | | |
| ローププロテクター | 2 | | |
| ギアコンテ | 2 | トップ、セカンド | |
| ハーケンつかみ | 2 | メジャー使用 | |
| ヤスリ | 1 | ダイヤモンド | |
| 標識テープ | 20本 | 赤ポリプロテープ | |
| テーピングテープ | 大1,小3 | | |
| ロープバック：大/小 | 大2(60L)/小2 | (ザック型) | |

| | | | |
|---------------|-------------|---------------|----|
| ハンギングストーブ | 1 | バーナー付き | |
| テルモス：500cc | 1 | | |
| 水ボトル：5L/500cc | 1 | ペットボトル | |
| ジョーゴ | 1 | ペットボトルで作成 | |
| 救急セット | 1 | セット（高所用持病薬入り） | |
| ポリ袋、ジップロック | 大4、ジップロック20 | | |
| 無線機 | 2 | マイク、携帯袋 | |
| ガスカートリッジ：230g | 15 | プリムス型 | 現地 |
| ツェルト | 1 | | |

予備 <登攀>

| | | | |
|----------|----|-------------|------|
| バーナーヘッド | 1 | クライマークッカー併用 | |
| ウォールホーラー | 1 | | |
| アブミ | 1 | | |
| 下降器 | 1 | シャント | 2個必要 |
| アッセンダー | 1個 | ベツル | |
| ヘッドランプ | 1 | | |
| アイゼン | 1 | | |
| 靴ひも | 2 | | |



岳連応援隊がBC訪問(4/26)

個人 <登攀>

| | | |
|-----------------|-----------------|---------|
| ハーネス | ファイイ、ハンマーホルダー付き | |
| アブミ | 1セット、プレート式がベター | |
| アセnder：ペツル/シャント | 1対/シャントは1個 | |
| ピッケル/アイスハンマー | 各1 ハンマーはミゾー | |
| アイゼン | 1対 | |
| ヘルメット | 1 | |
| セルフビレーツール | ディージーチェーンなど | |
| サングラス | 低所兼用可 | |
| シュラフ、カバー | 低所兼用可 | |
| ビレー器具(下降器) | 2 ATC、ルベルソ | TRE も有効 |
| プラブーツ | 1 | |
| スパッツ | 1対 | |
| ヤッケ | 上、下 | |
| 羽毛服/フリース | 羽毛下着でも可 | |
| ヘッドランプ | 単3、LED | |
| 手袋：荷揚げ、岩場、就寝 | 滑り止作業用、各種予備も | |
| スカーフ | 1 | |
| ナイフ | 低所兼用可 | |
| マット | 低所兼用可 | |
| 食器セット：マグ、箸、スプン | 低所兼用可 マグは400以上 | |
| 小便ボトル | 1 1リットル、広口 | |
| 空気まくら | 1 旅行用 | |
| ソックス | 3 ゴウ足もほしい | |
| 目出し帽/高所帽 | 1 | |
| シャツ、ズボン | 高所用 | |
| 肌着：上、下 | 高所用 | |
| 時計 | 低所兼用可(高度計付き) | |
| 肌保護用クリーム等 | 日焼け止め、リップ・・・ | |
| 持病薬 | | 各自 |
| 整理袋 | 各種 | |
| | | |

< 食料 >

今回の遠征の食料計画はいたって単純である。キャラバン中の食事は全てロッジを利用。BCは全てコックにお任せ、壁に取り付いてからの15日間のみを日本から持参した高所食料と現地調達の商品で賄う。

壁の中ではとにかく軽量が基本である。フリーズドライの乾燥米、スープ、味噌汁、副食用井の素が基本でこれに行動食の飴、クッキー、チョコバー、スポーツドリンク等である。

今回、(株)サタケ様よりマジックライスを多数ご提供いただき主食とさせていただいた。また、(株)明治乳業様からサプリメント各種と、スポーツドリンクのバームパウダーを多数ご提供いただき、利用させていただいた。以下が壁に取り付いてからの食料である、

| | | |
|---|---------------|----------|
| マジックライス | 100 g | 6 k g |
| | 2袋 × 2人 × 15日 | 60袋 |
| (大豆ひじき、白米、五目、山菜おこわ) | | |
| スープ、味噌汁類 | 10~30 g | 2 k g |
| | 4袋 × 2人 × 15日 | 120袋 |
| (玉子、中華、もずく、ポタージュ各種、コンソメ、豚汁、赤だし、小松菜、竹の子、蟹汁、長ネギ、ナス、ほうれん草、松茸、シジミ汁) | | |
| 茶碗で丼ドン | 各種井の素 15 g | 0.9 k g |
| | 2袋 × 2人 × 15日 | 60袋 |
| (中華丼、カツ丼、牛丼、マーボ丼、親子丼、ビビンバ丼) | | |
| ビスケット類 | 100 g | 3 k g |
| | 1個 × 2人 × 15日 | 30袋 |
| チョコバー | 50 g | 1.5 k g |
| | 1個 × 2人 × 15日 | 30袋 |
| キャンデー | | |
| 各種 | 3袋 | 0.5 k g |
| 紅茶・コーヒー・ココア・緑茶・昆布茶・梅茶・粉ミルク・砂糖 | | 2 k g |
| バームパウダー・アミノフィット・BGS | | 0.5 k g |
| 合計 | | 約 17 k g |



第二ビヴァーク地で

マジックライスは100gで1人前として十分な量である。朝食は二人で一袋を食べた。大豆ひじきご飯はたんぱく質と繊維質の補給として山では最適の乾燥米である。このマジックライスに茶碗で丼ドン2人前をかけて、フリーズドライの味噌汁(今回は福山のアマノフーズを使用)でいただく夕食は最高の贅沢であり楽しみであった。明治乳業のスポーツドリンクバーム・アミノフィットは疲れた体を癒してくれた。BGSは便秘防止に効果があった。今回の高所用食料はフリーズドライ食品が中心であった。最高に美味しく、軽く満足した。行動食はルート開拓中、忙しくて残ることもあったが、停滞中はいいおやつになった。結果的に質、量ともに満足いく食料計画であった。軽量化の為に1割~2割減らせないことはないが、多少体重が落ちるかもしれない。

BCでの食事はコックのダワラマのおかげで毎日最高の贅沢をさせてもらった。壁の中でも結構美味しく量的にも満足できた。体重の大きな減少や消耗もあまりなかった。

最終的に食い延ばしをして20日間くらいはしのげるだけの食料計画であったが多くを残しての撤退となった。残念である。

広島メイプルブース登山隊医薬品リスト

原則 2名3日分。

| 分類 | 効能 | 医薬品名 | 量 | 量は原則 2名の3日分 |
|----------------|---------------|-----------------|--------------|--------------|
| 抗生物質 | セフェム系抗生剤 | フロモックス | 42錠 | 1日3回、一回1錠、食後 |
| 消化器 | 下痢止め (止瀉剤) | ロベカルドカプセル | 42錠 | 1日3回、一回1錠、食後 |
| | 整腸剤(酪酸菌) | ミヤBM | 42包 | 1日3回、一回1包、食後 |
| | 腹痛 | ブスコパン | 30錠 | 1日3回、一回1錠、食後 |
| | 胃潰瘍予防薬 | タケブロン 15 | 84錠 | 1日3回、一回1錠、食後 |
| | 正露丸 | | 120錠 | 1日3回、一回3錠、食後 |
| 鎮痛・解熱 | 解熱鎮痛剤 | ブレスン | 42錠 | 1日3回、一回1錠、食後 |
| | 座薬(鎮痛) | アデフロニグズポ 50mg | 16錠 | 1日2錠まで |
| 風邪薬 | 総合感冒薬 | ヘブン 1.0 | 42包 | 1日3回、一回1包、食後 |
| 利尿剤 | ループ利尿剤 | フロセミド 20 | 42錠 | 1日3回、一回1錠、食後 |
| 咽頭・口腔 | 咳止め | SPTローチ明治 0.25mg | 140錠 | 1日3回、一回1錠、食後 |
| | 唇用クリーム | | | |
| 総合ビタミン剤 | ビタミンC | シナール 200 | 84錠 | 1日3回、一回1錠、食後 |
| | ビタミンB1剤 | アリアフロンF25 | 84錠 | 1日3回、一回1錠、食後 |
| 外用薬 | 外傷軟膏 | ゲンタシン軟膏 | 5本 | 10g |
| | かゆみ・虫さされ | アレルギール | 1本 | 20g |
| | 経皮鎮痛 | エアースロンパス | 1本 | 80ml |
| | 油分補給クリーム | アトリックス | 1本 | 50g |
| | リップクリーム | 紫外線カット | | |
| 点眼薬 | | フジサワOA目薬 | 1本 | 16ml |
| 消毒薬 | 外用消毒剤 | テルニジン外用液 10% | 1本 | 250ml |
| 外傷用資材 (その他) | | バンドエイド | 100枚 | |
| | | 弾力包帯各種 | 4本 | |
| | | 包帯各サイズ | | |
| | | ガーゼ各サイズ | 12枚 | 7.5cm×7.5cm |
| | | 三角巾 | 1枚 | |
| | | テーピングテープ | 4本 | |
| | | 湿布 | MS冷シップ「タイホウ」 | 4袋 |

(多くはJAC広島支部の杉村医師の寄付による)

2005 テンカンポチェ 会計

| 金額 | | US \$ | | | ルピー (Rs) | | | 円 | | | 備考 | |
|---------------|-----------------|-------|----|-------|----------|---|--------|---------|---|---------|------------|---------|
| | | 単価 | 数 | 計 | 単価 | 数 | 計 | 単価 | 数 | 計 | | |
| 登山料 | | 1,000 | 1 | 1,000 | | | | | | | | |
| コスモ | ハンドリングフィー | 1,500 | 1 | 1,500 | | | | | | | | |
| トランスポート | 申請料 | 100 | 3 | 300 | | | | | | | | |
| 国立公園税 | | 15 | 2 | 30 | | | | | | | | |
| 人件費 | リエゾン装備 | 1,800 | 1 | 1,800 | | | | | | | | |
| | リエゾン日当 | 7 | 34 | 238 | | | | | | | | |
| | コック装備 | 1,100 | 1 | 1,100 | | | | | | | | |
| | コック日当 | 5 | 33 | 165 | | | | | | | | |
| | キッチン装備 | 100 | 1 | 100 | | | | | | | | |
| | キッチン | 4 | 30 | 120 | 1,950 | 1 | 1,950 | | | | ホータホカ | |
| | 保険料 | 220 | 1 | 220 | | | | | | | | |
| トランスポート | 往路ホータ復路 | | | 0 | 5,500 | 4 | 22,000 | | | | 500x11x4 | |
| 滞在費 | カトマンズ | | | | 8,000 | 1 | 8,000 | | | | 500x4 頭 x4 | |
| | ロッジ | | | | 39,457 | 1 | 39,457 | | | | | |
| 食料 | 国内 | | | | | | | 34,017 | 1 | 34,017 | | |
| | KTM | | | | 6,986 | 1 | 6,986 | | | 0 | | |
| | ルクラ購入 | | | | 60,699 | 1 | 60,699 | | | 0 | | |
| | ゴミ処理 | | | | 300 | 1 | 300 | | | | | |
| 装備 | 国内 | | | | | | 0 | 183,604 | 1 | 183,604 | ロフキア bat | |
| | テント類レンタル | 305 | 1 | 305 | | | 0 | 46,360 | 1 | 46,360 | 通信・輸送 | |
| | KTM 購入ガス | 135 | 1 | 135 | | | 0 | | | 0 | | |
| | EMS | 90 | 1 | 90 | | | 0 | | | | | |
| | 電池 | 22 | 1 | 22 | | | 0 | | | | | |
| | 現地購入装備 | | | 0 | 8,820 | 1 | 8,820 | | | | | |
| 現地移動 往路・復路 | KTM ~ ルクラ | 190 | 2 | 380 | | | 0 | | | | | |
| | | 70 | 2 | 140 | | | 0 | | | | | |
| | 滞貨輸送費 | 135 | 1 | 135 | | | 0 | | | | | |
| | 滞貨輸送費 | 255 | 1 | 255 | | | 0 | | | | | |
| | ポカラバス代 | | | 0 | 3,200 | 1 | 3,200 | | | | | |
| 渡航費 航空運賃 | | | | 0 | | | 0 | | | | | |
| | KIX ~ KTM ~ KIX | | | 0 | | | 0 | 99,000 | 2 | 198,000 | 関空 ~ カマ | |
| その他 | コックボックス | | | 0 | 5,000 | 1 | 5,000 | | | | | |
| | キッチンボックス | | | | 3,000 | 1 | 3,000 | | | | | |
| | ホータボックス | | | | 1,500 | 1 | 1,500 | | | | | |
| | | | | 8,035 | | | | 190,607 | | | | 510,101 |

日本円換算

| | | | | |
|---------|---|------|---|---------|
| 8,035 | * | 105 | = | 843,675 |
| 190,607 | * | 1.57 | = | 299,253 |
| 510,101 | * | | = | 510,101 |

合計 1,653,029

1人当り 826,514

助成金 300,000
カンパ他 133,180

TKP行動日記

< 4 / 17 > モンジョ～ナムチェバザール

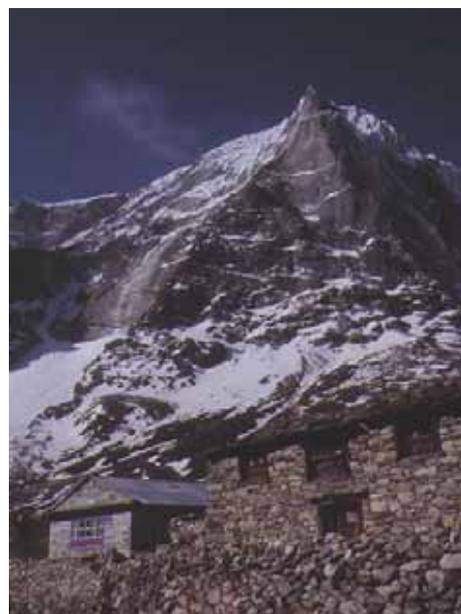
出発前の興奮から二人でウイスキー 1 本空けてしまい！ルクラ～モンジョは二日酔いの山行でおくたびれ。さすがに、昨夜は余り吞まらずに 9 時前には寝てしまった。二日酔いの寝不足で 1 日歩いたから、身体もくたびれたか。よく寝たので、今日は身体がしゃんとしてきた。朝食はチャパティとオムレツ・ミルク紅茶。7 時半モンジョ出発。9 時前に清水さんとマハビールさん率いるトレッキング隊に追いつく。ナムチェ下の二俣の吊り橋で一行を追い抜き、10 時前、坂を登りきりナムチェバザールのチェックポストに到着。パスポートと公園入園税の 30 ドルのレシートを見せる。ソナロッジに 10 時半到着。11 時にシャンポチェ 3850m の丘を目指して登り始める。途中からテンカンポチェ峰の上部の壁が見え始める。自分の目で初めて見るテンカンポチェである。2 年間思い続けた恋人に出会ったようで嬉しい。登るにしたがって下部の壁も見えてきた。秋の写真より雪が付き壁の弱点のラインがよくわかる。なんとか登れそうな気がする。上部壁と下部壁の境は雪壁になっている。シャンポチェの丘からの眺めは最高である。コンデリ・テンカンポチェ・テンギラギタウ・パルチャモ・テシラブチャまで全て見える。エベレストビューホテル越しにエベレストが見えるはずであるが、ガスっていて何も見えない。30 分で駆け下りる。1 時 45 分ロッジ着。昼食後、SPCC に出頭。サガルマータ・ポリューション・コントロール・コミティーの略である。書類提出。リエゾンとダワラマと 4 人で行く。15 分で終わる。役所かと思っていたら、民間の会社のように、ナムチェより奥の遠征隊のゴミ処理と、し尿処理を一手に引き受けている。我々の BC は隣のロッジのトイレを使うということでし尿の持ち帰りが不要となる。体調はまずまず！3446m のナムチェバザールはさすがの高度である。酒を飲むと脈が速い。清水さんのトレッキング隊（日本人中高年 7 人のグループ）も同宿である。コックつきのトレッキングでご馳走が出るわ！出るわ。

（松島）

< 4 / 18 > ナムチェ～テンポ

朝食はチャパティとオムレツ、清水隊からお

粥やラーメンを戴きお腹一杯になる。トレッキング隊の飯は豪華ですわ！支払いをすませシャンポチェ経由で BC 予定地のテンポ 4350m へと向かう。今日はかなりの強行軍である。1 時間で丘の頂上 3850m に到着。エベレスト（サガルマータ）の頂上がついに姿を現す。雪煙を上げている。大田先生があそこにいるんだと思うと涙が出てきた。ローツェも見える。アマダプラムも素晴らしい。写真を撮りまくり、BC へ向かう。シャンポチェ空港の端からナムチェ～ターメ街道へと下りていく。トラバースすること 30 分で合流した。プルテの手前で 2003 年のツラギ遠征でコックだったハスタライに会う。大の仲良しの彼は今回の山が危ないのをよく知っていて気をつけるかと抱きしめてくれた。プルテで休憩。ターメで先行していたダワラマ達に追いつき茶屋で紅茶を飲む。ポーテコシに架かる鉄の橋を渡り、30 分登ればターメに到着。有名なアンブルバシェルパの宿、ターメビューロッジで昼食をとる。アンブルバは名越さんが参加した 88 年の三国合同チョモランマ交差縦走隊のサミッターである。隊の荷物は今日、ターメ泊まり。我々はテンポを目指して出発する。テンカンポチェの壁のルートを観察しながら高度を上げていく。写真を撮りながらゆっくり登るのだが 4000m を越えてくるとさすがにしんどい。4300m テンポの台地に上がったのが午後 5 時過ぎ、テシラブチャの尾根に日が沈んだ。5 時半、ロッジ到着。素晴らしいロケーションである。



パルチャモティーショップと北壁

まさにテンカンポチェ峰の壁の下である。BC
予定地の河原が目の前である。このロッジに
は老夫婦と若奥さんと4才位の男の子、赤ち
ゃんがいる。小学生の娘はターメの実家から
学校に通い週末だけ帰ってくる。父親のペン
パチュティ・シェルパ(31才)はクライミング
シェルパで今はチョモランマのアメリカ隊で
作事中らしい。

ナクが20頭余りいる。だが食用の肉はない。
標高4350m。ロッジにトイレがない。SPCC
でBCのし尿はロッジにトイレがあるから持
ち帰りを免除されたのに、ええんかいな？
名越さんは高度障害がないというが。松島は
頭痛がするし脈が速く食欲もない。順応して
いない。9時頃疲れ果てて寝てしまう

(松島)

< 4 / 19 > テンボの茶店

2年前と同じ所で寝た。春なので5時には明
るくなる。ロッジの女主人は3番目の子をバ
スケットに入れて紐で背負ってあやしながら
食事の支度をしている。ネパールの山中はど
こでも宿やレストランは女が仕切っており、
男は登山隊などの出稼ぎがないときはボーと
していることが多いみたいだ。

ここ「パルチャモ・ティーショップ(すごい
名前をつけるなあ)」も旦那は今サガルマータ
(エベレスト)に行っているようで、壁に貼
ってあるフラグやシールはほとんど韓国隊の
ものだ。どうも彼は韓国隊がお得意様のよう
だ。

7時過ぎより背後の丘に少し上がって高いと
ころからBCに良い場所を探す。川向こうで
は宿の息子テンジンと祖母が牛を放して帰
りに「ゴパッ」と呼ぶ牛糞を拾っている。

丘を降りて川を渡り(飛び石で3歩)BC地
を物色しながら壁の取り付けに続く斜面を雪
線まで上がる(4500m)。宿には後続のキ
ャラバンが到着したようだ。

降りるとダワがBCはパッティ(茶店)のそ
ばにしようと言う。「そんなー」と思ったがあ
っさりそこに決める。

お昼、ネパールにきて一番旨い食事をヒマ
ラヤ山中で食えるとは思いませんでした。だが

夕食はもっとすごかった。五つ星ホテルの食
事をしているみたいだった。

(名越)

< 4 / 20 >

松島が風邪気味なので、一人上流に向かい北
西面の壁を双眼鏡にて偵察する。

壁から北東ピラーに出た肩から頂上までの長
い雪稜は両面からヒマラヤ巒がせめぎ合い、
ノコギリ状のナイフリッジがなんと缶切りナ
イフのようにえぐれているではないか！うわ
ー！これを往復すると命が九個くらい要る！
こんどはBCを通り越して下流まで降りて北
東面から壁と上部の雪稜を偵察するが、ガス
が降りてきてあの稜線はよく見えなかった。

(名越)



北西壁とのこぎりリッジ

< 4 / 21 > BC 休養

昨日は本当にずっと寝ていた。ひたすら寝た。
7時、リエゾンがナムチェに降りて報告があ
るからと言い出し、4000ルピーを握りし
めて降りて行った。金食い虫め！馬鹿たれ！
風邪と順応が進まないせいか、目が回る！リ
エゾンに金を渡したときは、本当にグルグル
と見事に目が回った。こんなに激しく目を回
したことはない。凄い！感動した。朝10時
までゴーアップ用の食料の準備と装備のチェ
ック、イメージ作りを行う。10時から一人テ
シラプチャ方面に高度順応トレに出かけた。

4600mまで。名越さん曰く缶切りの刃！みたいな頂上稜線を拝みに登る。まっこと壮絶な尾根である。3箇所くらい激しくえぐれており、登れる気がしない。頂上は無理かいなと弱気になる。登ってみると平衡感覚も戻り、快調である。標高差 250mを1時間で登り、30分で降りてきた。昼飯が激しいオオゴッツォー！胃の調子も戻り、食いまくる。昼からは休養。寝付いた頃3時のお茶。夕食がまた凄い！ポタージュスープ、混ぜご飯、コロッケ、牛カツと野菜、酢の物（大根、人参、わかめ）牛のタタキ。日本でもこんなに品数は食ったことがない！ダワラマの料理は半端じゃないよ。

（松島）

< 4 / 2 2 > 昼から小雪

チベット語に堪能なダワに「テンカンポチェ」の意味を聞いてみる。テン=高いところ、カン=山、ポチェはプチェ=長男。総合すると「高い山の長男」といったところか。

今日は取り付け迄の偵察と荷揚げを少し行う予定だ。

出発間際に小さなキャラバンが到着し、早くもテントを張っている。イギリス人（厳密にはMan島人だと本人は言っている）の隊で一人でパルチャモを登るとか。



いよいよ取り付けへ

9：20発。松島の顔はまだ腫れているが、動きはすこぶる順調だ。雪渓を登り、島のように点在する草付きをたどり北壁左手下部のハング下に到達。（4750m）11：30人の背丈ほどのハングが30mばかり続いており中程には大きな氷柱から水がしたたり落ちている。息を切らせながら氷を削り、荷物をデポする棚を作る。200mのフィックスがこの壁でどのくらいのスケールになるのか見当をつけるためここから下に向かって同じ長さの補助ロープを垂らしてみる。BCに降りてその距離を北壁に当てはめると直線2ピッチで北東壁に届きそうだ。

（名越）

< 4 / 2 3 >

6時、朝食をいつもより1時間早く済ませ、2回目の荷上げと初のルート工作に向かう。二人とも荷物は20kgを超え重荷に喘ぐ。200mの固定ロープ、60mのメインロープ2本、クライミングギア等々。10時取り付けに到着した頃より天気は悪く、ガスってしまい、雪がちらつく。トレッキング隊に託けるビデオを撮影する。名越さんはギャグを連発！取り付けより名越さん雪の斜面を直上し、ボルトを埋める。松島フォローして、2ピッチ目は松島が同じく雪の斜面を40m直上、左に20m戻して支点を作成。3ピッチ目も簡単そうなので松島がリード。50mの雪の斜面はどおってことないが、垂直の岩場にハーケンを1本叩き込みピッケルのピックを岩に引っ掛けてなんとか乗っ越す。あまりのヤバさに声を上げる。雪田を左に戻り、大スラブの下に支点作成。4時を過ぎる。名越さんはハーケンを回収して登るから落ちると大きく20mくらい振られる計算になる。岩は濡れてくるし、重荷を背負って支点なしの垂壁直上は相当にやばかったらしく。消耗して上がってきた。直ぐに下降開始。取り付けまで20分。BC到着は5時を過ぎていた、すぐに夕食となったが、二人とも肩で息をするくらい、へろへろになっていた。身体中が悲鳴を上げている。今日はよく働いた！

（松島）

< 4 / 2 4 > 昼過ぎよりあられ

いつもどおり 6 : 3 0、キチンボーイのチェーパが「サーブ、モーニングティー」と起こしに来る。お茶を飲んで身支度を調べ終わる 7 時頃、再度「サーブ、ブレイクファーストレディ」と呼びに来る。

今日は、気合いを入れてほとんどの荷物を担ぎ上げる。

8 : 5 0 発、取り付き 1 1 : 3 0 着。

一人優に 2 5 k g は越えていたが何とか自分たちだけで荷揚げが終了した。

取り付きからさらに昨日のフィクスをたどり 4 8 8 0 m 地点へ。岩場が寝ておりあまり良くないがなんとかポータレッジを設営する。帰りみち、松島はヘルメットが雪渓を落ちる早さと軌跡を調べているが、私は良いにおいのする「スーンパーティ」と呼ばれるツツジ科? の矮小低木の葉を少し摘みアロマセラピーを試みることにする。

(名越)



取り付きのハンゲ下へ荷揚げ

< 4 / 2 5 > 夜半から雷と雪、昼から曇り

今日は休養日。

昨夜雷がすごかった。なんと外は一面の銀世界！朝方の好天でまわりの雪はなんとか融けたが壁は真っ白のまま午後のガスに隠れてしまった。

B C に着いてからはじめてのホリデーなのでコックのダワは朝から腕を見せてくれる。鯉風味のシャクパにアップルケーキ、昼はうどんとオムライス、夕食は巻き寿司に天ぷら。

ハイ降参です、まいりましたー！

短波ラジオと格闘し、なんとかラジオニッポンが入る。JR 福知山線の大事故を知る。

(名越)

< 4 / 2 6 >



応援隊到着！

朝食を済ませのんびりしていると、9 時前にトレッキング隊の尾道さんの声が無線機に飛び込んでくる。松田さんの奥さんは高山病でターメに残ったらしい。11 時前に池田・松田・尾道の三氏がマハビールとスタッフと一緒に到着。なんと我らがリエゾンのジャヤラムシュレスタが引率しているではないか！記念撮影、ダワラマの豪華な昼食と慌ただしい。12 時前には下山していった。今日はターメの下の方まで下りるらしい。松田さんは少し顔がむくんでいた。みんな初めての高度でしんどそう。ロッジのチャンを呑んでもらった。4/23 にパルチャモに向かったイギリス人が登頂して帰ってきた。嬉しさが溢れていた。明日はいよいよゴーアップである。

(松島)

< 4 / 2 7 >

朝食 6 時、8 時に出発。待ちに待ったゴーアップである。2 週間から最長 20 日間は降りてこない覚悟で頂上を目指す。リエゾンとダワラマと 4 人で記念撮影。我々が生きている間に証拠写真が必要らしい。ゆっくりと快調に登り、取り付きに到着、10 時から荷上げ開始力仕事は若い？松島が担当する。

ユマーリング3ピッチでスラブ下に到着。荷物は4つに分けて上げる。4つの荷物を200m上げるということは200m×4回=800mロープにぶら下がり、800m登ることになる。傾斜が緩いのでめっちゃくちゃ重たい。腰が折れんばかりに体重をかけるが重たくて仕方ない。4回くらい引っかかり、どうにもならんでロープ伝いに荷物のところまで降りていく。それしか解決方法はなかった。荷物を腰にぶら下げてのユマーリングは地獄でした。傾斜の緩い場所の荷上げは担いでのユマーリングのほうが良かったかもと後から思った。最終的に名越さんが上がってきたのが夜8時過ぎでした。ヘッドランプをつけて上がってきた。テントができて中に入ったのが9時、10時に飯を食って、寝たのは11時過ぎ。本当にメチャメチャしんどい1日でした。「荷上げてこんなにしんどいんだ！」を実感した1日でした。参りました！完敗です。

(松島)

< 4 / 28 >

6時には明るくなり目を覚ます。9時半から行動開始。しかし垂らしていた補助ロープが引っかかり、上がってこない。名越さんが回収に降りる。11時ようやく新しいルート工作を開始する、松島がリードする。テントを吊っていたボルトまで登って(5m)、身体につけているギアの重さに負けてスリップし、名越さんのところまでズルズルと墜落！身が引き締まる！頑張れ！宏！快適なフェースクライミングであるが45m~50mロープが伸びたところで雪が猛烈に降ってきた。ホールドもスタンスも雪で覆われ、真っ白な世界に変わる。スノーシャワーが激しく襲う。どうにもできないので、ボルトを1本を埋めハーケン1枚追加して、下降する。2時過ぎにテントに戻る。テントを改善し居住性を高めた。昨日の疲れで調子が悪い。軽い頭痛もする。岩に雪が付着し滑る。下降途中足がすべり、大山で痛めた膝の靭帯を思い切り伸ばしてしまい、激痛が走る！

(松島)

< 4 / 30 > 9時から吹雪、17時半から晴



バッチェの周りがテント村に

夜間降雪はなかったが、壁は真っ白のまま。BCの茶屋の横には日本隊(10人のパルチヤモ登山)のテントが賑やかに花咲いている。8:50ユマーリングを始めるが、すぐに吹雪いてきて見る間にロープはエビのシッポを着け始める。アッセンダー(私のはユマール)が滑って結構時間がかかる。

松島の終了点に着いてからも雪はどんどん吹き募り、すこし顔を出していたスラブにも湿った雪が積もってゆく。トランシーバーから「今日はやめましようよ」の声が聞こえるが、せつかく苦勞して上がってきたのだからと、ルートを延ばし始める。乾いていれば快適なフリーのルートも湿り雪にカバーされてアイゼンでは全く先が読めないの、人工登攀にならざるを得ない。

まずボルトをしっかりと1本決めて、右下のルンゼ状に振り子を試みるもつるつるのルンゼに雪が軽く乗っているだけでまったく体を止めることができない。しかたなくボルトの上の岩のくぼみを少し削ってスカイフックをかける。上の雪田までは8m位なのでボルト連打でもいいのに、何を格好つけたのか必死で横のリスを探り何度も打ち損じてやっと半分ほどハーケンを利かせることができた。この3mで4時間くらいかかったが、雪はますます激しくなり結局今日は打ち切りとする。今日は珍しく夕方から天気が回復し、北の国境稜線に聳える巨峰群のショータイムとなる。

特にいつも朝の逆光で見えないマカルーが夕日を浴びて黄金に輝き、息をのむ美しさだった。

今回の高所食はすべてフリーズドライで、湯を掛ければ出来る物ばかりだがこれが結構いけるのだ。特にスープは(さすがというか)大阪の「にこにこノリフーズ(株)」の「もずくスープ」にとどめを刺された。

(名越)



雪煙を上げるエベレストとローツェ



夕焼けのマカルー

< 5 / 2 >

昨日は雪が降り続きポーターレッジから出られなかった。今日は名越さん4時間3mの仇を討ったわい!と松島はいきり立つ。朝7時起床。湯を沸かしている時、名越さんがシュラフを外に出そうとした瞬間、シャワーが襲う。名越さん側の半分が雪に埋まり、掻き出すのに30分かかかる。テントごと持って行かれそうで恐怖である。朝のいつもの降雪が

ない。小雪の散らつく中、12時半、松島ルート工作に向かう。名越さんの埋めたボルトに到達した。雪の下のホールドを探しダブルアックスでフリーを試みるも、連続2回、4mの墜落!フリーをあきらめ、ガチガチの人工登攀に切り替える。ハーケン6枚連打のあぶみ殺法でじわりじわりと高度を稼ぐ。ハング下の緩斜面に最後はボルトを埋め込み乗り越す。学生時代によくやった人工登攀である。慣れたものである。フリーは苦手だが、人工は任せなさい!スラブの緩斜面に載っている30cmの湿雪はたちが悪い。目の錯覚でラッセルして登れそうなので登るとずってしまうし、結局全部剥がすしかない。重労働である。ボルトを2本埋め、ピレイ点完成。雪のルンゼに突っ込む為の支点ができた。フィックスロープ200mを上げ、メインロープは固定した。Vサインで下降する。明日につながった。雪崩の巣の通過は隊長の番だ!

わしゃ!ラッキー!というか気の毒というか複雑な心境。でも名越さんならなんとかしてくれそう!?彼を拜むしかない!

(松島)

< 5 / 3 > 終日曇り雪

「今日から好天に入った」とダワ气象台は言うが、朝から全く日が差さない。壁の雪が融けないのなら、作戦を変更せざるを得ない。直登をやめて大きく左右に巻いている雪のバンドをたどってとにかく高度を稼ぐ、荷揚げのルートは出来るだけまっすぐに修正することにしよう。

9:10発。「今日はやったる!」

松島の作ったピレイ点から大きく右下に降りて、雪崩の通路となっている第一ルンゼを登りさらにその上の第二ルンゼを攀って大バンドに出て、バンドを左にトラバースして今のビバークサイトの真上にピレイポイントを作ってラッセルで帰る予定だ。

しかし、そのルートの上をドドー!と雪崩が落ちてゆくのをみると、考え込まざるを得ない、というかビビってしまう。次が来るまで何分待てばいいのか?・・・10分ほど躊躇して、意を決する。「わしを誰じゃ思うとらん

じゃー！」「来るなら来るなー」と訳の分からんことをつぶやきながら、ロシアンルーレットの始まりー・・・。

右下にトラバースして第一ルンゼに入り、一気に登る。途中ルンゼ内でランニングピレーを取りたかった（60mランナウトだもの、飛ばされたらもし死ななかつたとしてもまず無事ではすむまい）が、時間に賭ける。メチャしんどい、息が死ぬる？かと思った。ルンゼを抜け頭状の岩にエイリアンでどうにかピレーを取った直後、来ました！凄いやつが。それも溜まっていたのか続けて3発も。ワシって思いっきりラッキー！でもロシアンルーレットって玉は一発じゃあなかつたっけ・・・



雪崩の巣に突っ込んでゆく

さらに雪面を1ピッチトラバースして問題の第2ルンゼに取り付く。

ガリーには全面うすくベチャベチャの雪が着いていて中を融けた水が流れている。斜度は65度。たぶん北壁の核心部と思われるが、私はなぜかこういっただのが好きなのだ。

右端の草付き（ここは5000m近くまで芝草の様な植物が所々生えている）をピオレトラクションで6mほど登り、ハング下の泥を落とすと又も先ほどの紫エイリアン（今日はギアを軽くしたいのでカムは1個しか持っていない）がバッチリ利いた。振り子でガリーに戻り、ズブズブの雪を手で押し固めながらアイゼンを乗せてゆく。「あれっまだ落ちずに止まっとる」てな感じでなんとか登ってゆくが、ガリーの抜け口がハングっているので右の岩稜に乗り移る。最期の岩こぶはアイゼン

で一気に駆け上がりマントルを返して上がり込む。よく落ちなかつたが息が戻らない。5分ばかり雪に突っ伏して喘ぐ。



核心部のガリー

岩稜の頭（ルンゼの口）からは広いバンドが左上ぎみに300mほども続いている。ヤッタゼー！思わずガッツポーズをしてしまう。松島を迎えて、バンドのトラバースにかかろうとしたが、彼が引いてきた200mのスタティックロープが（必然的に）ひかかってしまい、また明日同じルートを辿って来なくてはならなくなった。

（名越）

< 5 / 4 >

7時に目覚め、8時過ぎ朝食、9時前に松島先頭でユマーリング開始。ルンゼのロシアンルーレットは固定ロープがあるとはいえ怖い一言！猛烈なスピードでかけあがる。メチャンコしんどい！名越さんは昨日のルーレットで疲れ果てたか、ユマールを残置してきており、シャントで上がってきた。そこからは松島がスタティックロープで吊り上げ気味に引っ張る。10時半に二人が第二ルンゼ上の最終ピレイ点に到達。松島トップで標高5000mの大雪田（幅20m）を左に斜上していく。ハーケン1枚、スノープレート3枚を埋め、約150m左にトラバースして唇状大ハングの下に到達。ハーケンとボルトを埋め名越さんを迎える。

テント位置を決める。名越さん、私の作った

ビレイ点は岩が洗われていて雪崩の通り道だと言い、10mずらす。確かにそこは翌日からスノーシャワーの中心となる。彼が現在まで危険なアルパインを続けながら死なない理由がよくわかる。新たにビレイ点とテント用支点を作り、下降する。しかし下から「テントがない！ここはどこ？」と騒いでいる。どうやら大きく左（下から見て）にそれたらしい。名越さん苦労の末、長さ50m幅30mの岩尾根を乗り越えて、テントに帰着した模様。松島も続くが岩尾根にロープが絡み動きもすごきもしない。岩尾根の頂点まで登り返すしかない。ロープが凍り、雪がつきユマールが効かない！仕方ないのでATCでずりあがる。岩尾根の頂点まで登り、ロープをかわそうとするがびくともしない。

途方に暮れていたら、来た！来た！大雪崩である。見事にロープをぶっ飛ばしてくれて尾根をかわすことができた。雪崩に感謝！岩尾根上を懸垂下降し第一ビレイポイントに到着した。ロープを固定し、テントまでロープが届かないというのでメインロープを固定してテントに辿り着く。6時を過ぎ、二人ともヘロヘロクタクタで夕食！しかし大シャワーがテントを襲い、除雪に1時間。すべて済ませて11時、濡れて凍ったシュラフに入る。雪が降り続きあちこちで雪崩している。テントごとぶっ飛ばされる恐怖感で怯えていたが、泣き寝入りした。だが寒くて熟睡できない。ゴーアップ8日目であるが下部岩壁突破の目途がつかない。明日は荷揚げとテントの設置ができるか？身体が疲れているのは確かである。

（松島）



ぐったりしながら日記を付ける名越

< 5 / 5 > 晴れ9時から雪

今日は荷揚げをしてポータレッジを吊すだけだ。と思っていたが、死にそうな目にあった。私はこのところ腹に力を入れるとうんこが漏れてしまうので、今日も松島にホールアップに上がってもらう。

今回はほとんどスラブに沿っての荷揚げなのでわりとスムーズに荷物は上がっていった。それでも3回のホールアップなら松島は約5mくらいの雪面を(200m X 3回 ÷ 5m) 120回往復しなければならない(よーやるわ)。



いえ、くつろいでいるのです

終い頃はロープに雪がつき始めウォールホーラーのストッパーが滑って苦労したようだったが、私は苦労どころの話ではなかった。15時ホールアップ完了し、ビレイポイントのロープ類など回収しながらユマリングしてゆく。先日松島が苦労して設置したビレイ点のあたりから気温が下がって、ロープは氷の棒、秋田の“きりたんぼ”みたいになってまったくユマールの針は役に立たなくなってしまった。これではさすがの松島も引き上げるのは無理だという。こうなることを想定して下ろしてもらっていた1個の「シャント」だけがなんとか氷の棒に噛みついてくれる。斜面の緩いところはシャントだけで、急峻で立てない所はへその所にルベルソをつけて体重を預けるのだが、堅くなったロープはルベルソの中を自動では回ってくれない。シャン

トにぶら下がってルベルソのロープをたぐり寄せ、こんどはルベルソに体重を預けてシャントを上にはずさせ、体を持ち上げて（自動でルベルソの中をロープが回らないから）一旦片手でロープを握り体制を維持して片手でシャントを上にはずさせる。体重をかける。残り140mをこの方法で尺取り虫のように登ってゆく。吹雪はひどくなるし日は暮れてくる、もしかしたら私はここでビバークか？永遠に着かんのではないか？・・・と悲壮感にどっぷり浸かってしまいそうになる。

それでも19時半、暗くなった大バンドに這い上がる。松島が設営していたポータレッジに転げ込み、食事を終えたときは21時を回っていた。

昨夜もそうだったが、すでに二人ともシュラフがグッショリ濡れていて、まるで氷の棺桶に入っているようで、朝まで震えて寝付けなかった。

（名越）

< 5 / 7 > 晴れのち曇り、雪崩多し



大ハングの上に上部壁がのしかかる

今日はこの先の目処を付けようと、天候のいい朝方に行動するべく5時半に起きて、お茶のみ飲んで外に出る。昨夜もほとんど寝てないから（朝飯も食べてないしいー）ものすごく体がだるい。どうってことない雪の斜面をあえぎながら斜上してゆく。40m位の所で中間ピンの必要を感じて細いリスに無理やりハーケンを叩き込んでいると、案の定小さな雪崩が落ちてきて打ちかけのハーケんにしゃばって耐える。このハーケンが数時間後に自

分の命を救うことになるとは思ってなかった。

その先のカンテ状でピッチを切り、さらに雪面を左上すると雪のバンドが途切れ、そこにしっかりしたビレーポイントを取る。（最高到達点5100m）とにかくガスが湧く前に上部と北東壁の状態を見たいので時間のかかるクライミングはやめて、左下に向かって振りながら北東岩稜を回り込んでゆく。すぐに岩稜上部の様子が分かった。



ついに北東壁を見る「うわー何これー！」

比較的傾斜の緩い北東稜はべったり雪がついており、北東壁に入り込むまでの200mにさえ相当な日数が予想された。あと4日で北東岩稜の完登はとうてい考えられない。

「フィニッシュ！」と、何度も叫んでいた。諦めきれない松島の気持ちもあり、いまだ北東壁を覗いてみることにしてさらに振り子でスラブを回り込む。すでにガスが昇ってきて下部の大ルンゼは見えなかったが、巨大な氷の樋となった頂上部の斜面が見えた。それは来るとき見えていた壁とはまったく違った死に神のような不気味さであった。

この先行けるところまでルートを延ばしてし

まうと、今までとは比べ物にならない凶暴な雪崩マシンの真っ直中に入り込んでしまい、間違いなく命は無い。なんとか（生きて）帰れる可能性があるうちに下降（敗退）をしたほうがよいと判断した。日本に帰ってこの時の壁をBCから撮った写真を送ってもらって、自分の判断が間違っていないことを確信した。それはクリスマスケーキのようにべったり雪を付けて、至るところに雪崩が発生しているゾッとするものだった。そして北東壁で発生した雪崩は特に強力で、谷底のBCまで爆風が届いていたとのことだった。



襲ってくる雪崩（日高氏撮影）

そのまま振り子で松島の所まで戻り、下降に移る。気が抜けてしまっておそろしく動作が緩慢になっている。ふらふらと下って、例のハーケンにランニングピレールを取ったその時だった。松島の「来たー！キター！」という絶叫にハッと上を見ると灰色っぽい巨大な滝が自分に襲いかかってくるのが見えた。一応雪面にピッケルを刺して身構えたが「こりゃ持って行かれるな」と感じていた。氷まじりの重たい雪がドドーと襲い被さってきてあっという間に体は宙にはじき飛ばされていた。宙づりでどのけぞっているところに尚も雪

崩が降りかかって鯖折りで“急流のルアー”状態になり「苦しー！」咄嗟にアイゼンでスラブを蹴って雪崩の本流から逃れ、スラブから雪面に這い上がる。うわーしんどい！オー生きとー！



我々を襲う雪崩を見て騒ぐシェルパ達

ふらふらになってポータレッジまで逃げ帰った。

2時過ぎ、遅すぎる朝昼をかねた食事を取る。今日は15時過ぎても吹雪にはならず、なんと霧雨が降っている。

夜話し合って下山を決める。

（名越）

< 5 / 8 > 晴れ、午後曇りガス



食糧を手に記念撮影（なんで好天なの？）

7時頃より荷下げにかかる。一回で全部の荷を下ろすので、まず一人（松島）が補助ロープを持って200mをラッペルし、最初のピバークサイトに降りる。

このパートはほとんどスラブで真っ直ぐなの

で、わりと簡単に荷物は下ろせた。
上の私は200mのロープを半分ほど引き上げて、100mのラッペルをし、末端付近でボルトを打ち、そこを支点にさらに100mのラッペルを繰り返し松島の待つサイトに着く。ここまでは順調だったのだが・・・。



ベースは遠い

私のトランシーバーの電池が切れたのだ。換えの電池はすべてそれぞれの機器袋に入れているのだが、そういえば松島のウォークマンの電池が切れたときに提供して、補充するのを忘れていた。電池は今きれいにパッキングされたホールバックの一番下にあるのだ。なんちゅうこっちゃ！

そういう時のためにお互い笛を持っているのだが、この最下部のルートはくの字に曲がっており、しかも松島はハングの下（取り付け点）にいてお互いよく聞こえない。

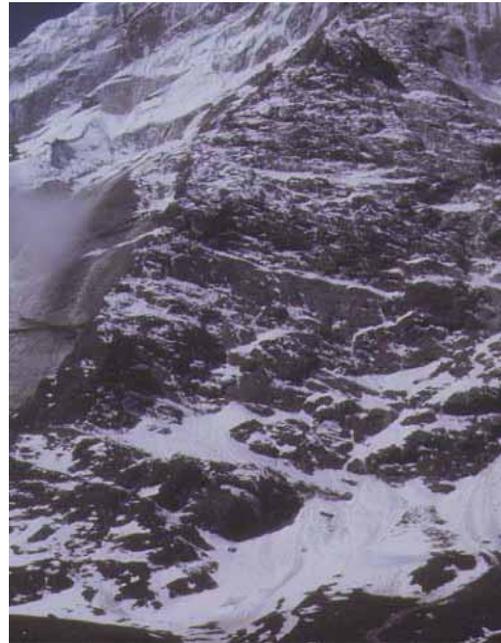
岩壁の部分はいいが、一度雪田に着くや腐った雪に荷物が埋まりこんで、いくら松島が下から補助ロープを引いてもびくともしない。これはもう私が降りて荷物を引っ張っていくしかない。一つ目の雪田をクリアし、最期の雪斜面に荷を下ろしその上の岩壁をラッペルしているときロープの末端がきた。雪面まで15mだが旨い具合にそこから斜度が落ちている。ロープを外して完全なフリーになってクライミングダウンをする。

松島から60m上のビレーポイントにロープを通し、一塊になった4個のバッグ（約100kg）を6mほど動かすと、なんと！その一塊が猛烈な勢いで滑り始めたではないか。

うわっ、ビレーポイントに飛びつきロープを握りしめる。だがバッグの一つが口を開けて中の物がハングの遙か下に飛んで行くのが見えた。荷物をハング下部まで下ろし、松島に回収させ、私も取り付けに降りる。

取り付けの下は一面デブリの海となっている。今雪崩が来ないことを祈りながら荷物を引いて下っていくと、そこここに先ほどバッグから飛び出た物が散らばっている。デブリの下端付近に来たとき松島が「来たー！」と叫ぶ。ガスの彼方でドドーという音は聞こえるが幸い私のところまでは届かない。こんな湿った雪のデブリに埋まったら絶対安らかに眠ってしまうだろうな・・・と考えながら斜度の落ちた雪面を荷物を引いてあえいでいると、ガスの中すぐ近くにダワの声がする。チャーパと二人で迎えに来てくれたのだった。

安全な草付きまで荷物を下ろし、こんどは担ぎ下ろすために再梱包をする。



北壁を振り返る（中間のバンドまで）

手出しは要らないと言ったのだが「せっかく来たのだから手伝わせてくれ」との言葉に、どうせ敗退したのだからそこまで突っ張ることはないかあと、少し持って降りてもらふことにする。それでもバッグ1個を残してしまい翌日チャーパが朝飯前に回収してくれた。

「工業ボルトも残せばごみになります」と感心なことを言った松島は30kg、私は25kg位の荷物を背負い、二人ともへろへろで、しかしなんとか無事に、BCに着いた。あー生きて戻れたー！支援隊の池田先生が差し入れてくれた日本酒でささやかに生還祝いをする。



ベースに戻った二人

夜中、目の中に石が入ったみたいに痛く、雪盲に罹ったことを知る。雪崩でやられた腰も痛く、もう好きにせー！っちゅう感じ。

(名越)

< 5 / 11 >

BCに降りて二日間、名越さんの雪盲と腰の痛みも一段落、装備類の整理もついたのでBC撤収となった。しかしあれだけ強い名越さんが完膚なきまでに打ちのめされた姿を見て、生きて帰れて良かった！とつくづく思った。ロッジの若奥さんがターメから呼んだ馬方おばさん、ゾッキョ数頭が上がってきた。



荷積みをする馬方

九時前出発。

名越さんと隊貨は今日ターメ泊まり。松島は鬱憤ばらしにナンパラ(ネパール・中国国境5700m)を目指すことにした。無謀にも一人で、BCから一泊二日でナンパラを落としターメに戻ろうという計画である。普通なら三倍くらいかかるが高度順応もできているし、なんとかなるわいと！一人で先行する。名越さんは一日ターメで休養し、私と合流し、また一緒にナムチェバザールに降りる予定である。だが、歩き始めて異常に足が痛いのに驚いた。なんと凍傷の痛みである。

BCが4350m、下ってターメ3800mは十一時前に通過して、いよいよナンパラへと登っていく。午後三時4600mを越えると寒くなった。ジャケットを着て、ひたすら登る。ほとんど休まずひたすら登る。名越さんとずっと一緒に狭いポータレッジで暮らしていたから、一人旅は新鮮である。壁の中でごそごそと荷揚げに明け暮れ、恐怖感に怯えていたので、歩くことが実に爽快である。高度を上げるとテンカンポチェが見えてきた。あれほどすごかった壁も離れて角度を変えて見ると、たいしたことはない。五時半誰もいないカルカの石積みの中にツェルトを張る。標高4890m。チベット人の隊商(ヤク10頭)が近くに幕営し、若い奴が煙草をせびりに来た。ポーターもなんも使わず全ての装備と食料を担いでの速攻トレッキングが私の性に合っている。明日は国境に立ってやるぞと鼻息だけは荒いが、疲れ果て、飯を食ってブランデーを呑んだらバタンキューであった。

(松島)



ひたすら歩く、あるく！

< 5 / 1 2 > 午後から雪

5時に目覚め6時半出発。4950m 7時半通過。イタリアのトレッキンググループのキャンプを追い越す。5050mに石室あり。4~5室。5300mのチュオユー前衛峰のイタリア隊BCに11時半到着。ここからナンパラまであと4~5時間はかかる。



ナンパラは指呼の間

すぐそこにナンパラは見えているが、今日中にターメに帰る約束なので、残念だがこままでとする。

イタリア隊のBCでお茶をよばれ、少しおしゃべりをして下山開始。昨日のキャンプ通過が4時。6時にマルルン通過。7時に暗くなり、リヒトチカチカで8時ターメ到着。さすがに長距離のトレッキングは足にきた！股関節と膝が音を発し悲鳴をあげている。

ターメビューロッジは改装中！チャーバがバレービューロッジに案内してくれた。名越さんも寝ていたが喜んで迎えてくれる。ご主人はお医者さんで。名越さんは腰を診断してもらった様子。二日間のスーパーハードトレッキングが効いたのか、足が非常に痛む。凍傷のダメージもひどいものだ。本当に痛い。98年天山遠征のときの痛みを思い出す。壁の中、狭いテントの中で乾かすこともできず、びしょ濡れで凍ったシュラフで震えた！二人とも凍傷を負っていた。

松島、鬱憤は晴らすが猛烈な疲労を代償として支払った。でも楽しかった。

(松島)



イタリア隊BCでお茶をよばれる

< 5 / 1 3 > (金) 晴れ時々曇り

「せっかく松島が早く降りてきたのだから今日中にナムチェバザールに下りれば、SPCC(土日休み)での手続きが出来ますが・・・」とのダワの進言を受けてとにかくナムチェまで下ることにする。

ターメ発 9:00

だが二人とも今日は(凍傷の)足の裏が痛くなってきた、もう牛に追いつけん。



買い出しに行くバッチィの女主人

ターモ村ではゴンパの新築祝いをやっている。それを見ながらゆっくりチャイを飲むのもいい。おぼつかない足取りで歩いていると後ろからBC横の茶店の女主人が追いついてきた。背中の中には赤ん坊が入っている。ナムチェのバザールに出品される前にシャンボチェの飛行場で卸市があるのだという。ターメでホテルを増築中のパルテンバはやはり飛行場で材木の市が開かれると言っていた。



ほこらの新築祝い？(ターモ村)

ナムチェバザール着 13:40
SPCCでの手続き(ゴミ焼却費300Rs)はダワが済ませていたので、我々はそれとばかりにインターネットカフェにくりだす。メールメッセージ作成中に停電などあって2時間かけて主だったところへ登山報告を送信する。時間もかかったが、料金も掛かった。二人でなんと3000Rs(4800円)衛星電話経由だからこんなもんだらう。外のショップには有名メーカーのグッズが驚くべき安値で出ている。それはそうだろう、チベット(中国)から牛の背にゆられて「メイドインチャイナ」のブランド品が“密輸”されているのだ。そのためヒマラヤ山中の村よりカトマンズのほうが高値という奇妙なことがおこっている。
SPCCは民間組合なので国からゴミ処理のような事業を請け負ったり、エベレストのアイスフォールのフィックス工作をして各登山隊から通行料を取ったりしている。フィックスは5月末には撤去するそうだが、今年はまだ(51隊の内)どこの隊も登頂してないと

のこと。
今日途中で出会ったおじいさんが、今年ば「ノーグットウエザー」じゃなくて「バットウエザー」じゃ。と言ってたけどやっぱりそうなんだー。

(名越)

< 5 / 14 >

エベレスト街道のトレッキングに行く松島を残して、我々はルクラに下る。

ナムチェ発 9:10

村の一番下では今日もバザールが開かれている。むんむんする活気があり、私は大好きだ。足と腰が痛く老人の様にゆっくりと下ってゆく。

本来ゾッキョは2日を掛けてルクラまで行くのだが、馬方は帰りを急いでおり2日分の日当で今日中にルクラまで行くという。

馬方は余裕で、アラ(度の強い酒)を飲んでフラフラしながら馬を追っている。私は飲んでないのにそれよりフラフラですぐに抜かれてしまうが、馬はしょっちゅう道草をくっており、また私が追い抜くことになる。

クスムガングルの茶店でダワが心配して待ってくれており、見かねて私の(っていうか彼に借りたんだけど)ザックをもってくる。

ルクラ着 17:40(サウスコルロッジ)久しぶりに果てたのか、ビールを飲むと気分が悪くなって、飯も食わずに寝てしまう。

(名越)



木材を運ぶ(なんと80kg!)

< 5 / 15 >

昨日は名越さんを見送り、足の痛みを抑える鎮痛剤をキープする。朝からチャンとワインで気分良く爆睡、昼飯も焼きそばにビールで爆睡。爆酔？夕方は買い物と優雅な休日であった。今日から2泊3日のエベレストBC訪問スーパーウルトラトレッキングの開始である。普通だったら1週間以上かけるが鬱憤のまだ晴れない欲求不満爺は地図を見て、3日あれば楽勝だと思った。



ご存じアマダブラム



ゴーカシェプよりのサガルマータ南壁

7時前ソナロッジ出発。今回はロッジ利用なので少し軽量化できた。8時50分ブンギ3200m通過、タンポチェの丘10時半着3870mこの登りはさすがに堪えた！ここからの眺めは素晴らしい！エベレスト、ローツェ、アマダブラムが迫ってくる。12時にパンポチェに到着。アマダブラムレストランで昼食。パンポチェにはエベレストBCから休養の為に標

高を下げる隊員がたくさん滞在していた。1時間後出発。2時半ペリチェ4243m到着。荒涼とした町である。3時ドゥッサ、4時トゥクラ4500m到着。ロブチェまでの様子がわからないので、ここに泊まることにした。

< 5 / 16 >6時朝食。6時15分出発。7時半ロブチェ4930m到着。9時半ゴーカシェプ。5288m。11時エベレストBC5337mに到着。なんというスピードだ。憧れのアイスフォールが目の前にある。チーム本田のテントを訪問、群馬の岩崎圭一さん(32歳)の国際隊のテントに招待され、昼食をご馳走になる。彼は5月末にサミッターとなったと、帰国後わかった。エイシャントレックの公募国際隊で一人の費用が300万円と安い？。13時BCを出発し、ペリチェ4243mに5時20分到着。ヒマヤンホテルに宿泊。

(松島)

< 5 / 16 >



サガルマータ(エベレスト)BC

6時半ペリチェ4243m出発。ほとんど休まず90~120分ピッチで歩く。7時50分パンポチェ。9時テンポチェ9時40分ブンギ3250m着。ナムチェ12時到着。14時モンジョ。15時パグディン。16時ガット着。ルクラ2827m到着17時10分。最後のカトマンズ便があれば乗っちゃろう！と思いつつ飛ばして来たが、さすがに最後はヘロってしまい、楽勝ではなかった。疲れました。でもあんたは強いというか、馬鹿というか、ようやるわ宏君！自分ながらに感心！

(松島)

カトマンズ～ポカラの休日



朝日を受けるアンナプルナ連峰

< 5 / 20 > (金) カトマンズ～ポカラ

デラックスの高速バス「グリーンライナー」にてポカラに向かう。予約制のバスはウィークデイだからマオイストの影響からガラガラである。昼飯付き往復一人12\$。外国人専用なのか、一人につきネパリー人の随行が許されており、途中の検問はフリーパスである。(一般乗り合いバスは要所要所で全員の厳重なチェックがある) 乗客は我々を入れて東洋人7人とインド人家族9人とメイド、それに随行のネパリー(ダワ、チェーバ他)3人である。シク教徒の家族の中に5才くらいの女の子がいてこの子がうるさいのなんの。ポカラに着くまで嬌声(っていうか悲鳴)を張り上げて騒ぎまくっていた。(なんと宿も帰りも一緒だった！)

カトマンズ盆地を取り巻く外輪山を西に越えてドンドン下り、小沢だった川はトリスリ河と合流して堂々たる渓谷となり、さらにマナスル方面からのプリガンダキ河と合流するあたりで昼食となる。ここのカレーはコックのダワが勧めるほど旨かったが、私はこのところ下痢気味(にもなるわな毎日痛飲してりゃ)なので抑え気味にしておく。(ムクリン11:40) 道はここでインドとポカラ方面にわかれており、河は支流を集めてインドへと下ってゆく。すぐ近くにネパール第2の発電所があり、道路にはマオイスト対策の岩などがジグザグに置いてある。

ポカラ着 14:10

駐車場から少し歩いてグリーンパークという宿に入る。我々以外まったく他の観光客を見ない。宿はいくらでも値引きに応じるのでかわいそうになる。(1部屋300Rs)

地元の話だと、一昨日大きな雹(1kgもの!)が降って青年が一人死亡したとのことだ。あちこちフロントガラスにビシー!とひびの入った車が止まっている。

土日はネパールの公休日なので博物館が開まっているかもしれないというので急ぎタクシーを呼び、「インターナショナル・マウンテン・ミュージアム」に行く。



国際山岳博物館を訪問

セティ川のほとりの広大な敷地内にぼつりぼつりと建物があり、その中の巨大なパピリオン風の建物が山岳博物館である。

広島県山岳連盟は故あってこの博物館の企画が持ち上がったときから(日本で最初に)十数年、毎年わずか五万円づつだが寄付を続けてきた。そんなこともあって昨年の2月5日のグランドオープンには招待(状が来ただけ)されていたのだが、さすがにそれだけのために身銭を切ってポカラまで来る者はいなかった。当然寄付リストを見れば判るはずなので、「広島じゃー!館長を出せー」と言ったが、残念!館長は不在・・・。どうもそういったリストなどは無いみたいで、30分も待たされて入り口を通してくれた。誰も只にしるとわめいたわけではないのだが、なんとなく無料になっていた。現在JICAのシニアボランティアで竹花さんという方がおられて館内を

くまなく案内してくれた
日本からの寄付が全体の80%以上だとのこと。どうりでやけに日本の登山隊の装備や記録写真などの展示が目につくと思った。
その中に88年の三国友好登山の展示があり、懐かしいなぁと思って見ていたら、な、なんとー！30才代の自分が写っていた。おお！ついにワシも博物館人間になってしまった・・・。



館内の展示（スペースはまだいくらでも）

町はずれの博物館から歩いての帰り道、雷が鳴っているなと思っていたら急に雷が降ってきたではないか。竹花さんの話していた通り雷は横殴りにも降るのだ。危ないので近くのバッチェに逃げ込むと、運良く竹花さんの送迎車が通りかかり宿まで送ってもらう。

今夜は松島の誕生日だ。隣の「ペワ・レイクサイドレストラン」にてタンドリーチキンをたらふく食べ、且飲む。記念写真を撮ろうと持って行ったデジカメを忘れて帰る。ワー！お願い、メモリーだけでも返してー！！

（名越）



マチャプチャレの夕暮れ



サランコットの丘にて

われらがテンカンポチェ

ありがとう！

松島 宏

名越さんからテンカンポチェ峰の壁を登らないかという話を聞いたのが 2003 年の春であった。山登りが好きで、学生時代、山にとち狂い、休みの多い教師になってみたものの中途半端で、高校生の指導？とかでお茶を濁していた。たまたま 98 年夏に岳連隊の天山山脈への遠征に隊長として参加し、あげくに遭難し、生死をさまよった。その時本当に死にかけて生還したから、生きていればよし！という感覚になった。人生観が大きく変わった！極限状態で、打ちのめされたが、自分の潜在能力の高さにも驚き、自信になった。そして本当に困難な山に登りたくなった。ハイリスク！ハイリターンの原点を呼び覚まされた。登りたい一心であった。

その後、うまい具合に？リストラに遭遇し、いい機会？だと勝手に解釈し、山を登るために定職を放棄した。

そして 2003 年春、ある会の遠征に混ぜてもらい 7000m を越える未踏峰を目指した。先頭に立って頑張ることはできたが、シェルパやポーターに依存することが多く、満足はできなかった。欲求不満で敗退した。何か違っていった。

そんな状況の中での、彼のお誘いである！渡りに船、私の望んでいた全てを満足させるパートナーの出現である。自分より強く、経験豊富でより困難を目指す。入れ食いであった。

2004 年の秋を目指しトレーニングに入った。岩場のルート開拓と冬の壁。経験は少ないが好きなハイリスクだから楽しかった。名越さんは辛抱強く私を先頭に立たせ経験を積ませてくれた。なにより気があった。二人とも過激でスケベで（深い意味を理解して！）優しい。いい兄貴というか、もっと褒めれば、異

性であれば一緒になりたいような相手である。（言い過ぎか？）そうじゃなければ、狭いテントの中で一緒に死の恐怖とも戦えないし、命を預けるわけにはいかない。組む前から直感的にわかっていた。

確かに私はその未熟さから名越さんを随分と危ない目に遭わせた。名越さんの友人は随分と心配したと思う。でも彼からすればアル一定レベルを超えていれば誰でも良かったのかもしれないが、私の感覚からすると組んだのは必然としか考えようがない。

様々なことを教えられた今回の遠征であるが彼の研ぎ澄まされた危険に対する洞察力と感性は凄いの一言である。

今回一番嬉しかったのは困難な山とカールトに挑めた！じゃなしに彼と組めたことである。BC に降りてからか、お世辞かもしれないが「免許皆伝！」みたいなことを言われて凄く嬉しかった。未熟なワシに我慢強く付き合ってくれて本当に感謝している。次があるとしたら彼とまた組みたいし、そうじゃなかったら、この壁を知ってしまった以上、単独でも登りたいと思っている。今回の遠征では登れなかったけど、最高に楽しい遠征であった。名越さんほどの感性は持ち合わせていないのでひとりでやるとしたら危険極まりないかもしれないが、ひとりでもこの壁はやつつける価値があると思っている。

これまでの最大のピンチは昨年 7 月の宮島駒ガ林での事故である。暑さに二人ともポットして気が付いたら彼が目の前の岩の参道の階段に叩きつけられていた！彼は血を吐きうめき、一瞬死んだと思った。そんな彼とこれだけの戦いを展開できたことだけで、自分の人生の価値を実感する。なんて凄い妖怪との出会いであろうか！まさにラッキーであった。あり得ないくらいの感動を実感できた。そんなことを考える今日この頃なのです。

ピース！ピース！

七度目の不正直

名越 實

私にとってこのたびの登山を何と言えよいか。十中八九“くどける”と思っていたお姫様の前に白髪のばばあが出てきてひどく邪魔をされて、ほとんど話しもさせてもらえなかった、という感じだ。しかも今までで一番安全だと思っていたのに、かなりヤバくて婆あを騙すのに全力を使ってしまい、危うく捕まりそうになり、這々の体で逃げ帰った。てなところか。

でもそれが毎日わくわくドキドキの連続で、結構楽しかった。



最後のアタック(5050m)

これで七度目の遠征となるが、“隊として”失敗したのは今回が初めてである(勿論個人的に登頂、完登を逃したことはまああるが)。

「おまえの運も使い果たした」とか、「はあ、おまえも歳じゃ」とか言われるがそうかもしれない。

でも元々たいした技術も体力も無いので、運任せ体力まかせの登山はしていない(出来な

い?)。傍目には無謀な計画の様に見えても本人はけっこう考えて、およそ勝てる勝負しかしてないのだ。勿論甘受しなければならぬリスクは山ほど・・・あるが、そのために満足感が減少してもあらかじめ排除できるリスクは取らないようにしている。それに(認知症が始まったのか?)なんか年々アルパインクライムのレベルが少しずつ上がってきているような気がするのだ。(たぶん気のせいだと思うが・・・)

多分、次回(オイ、オイ!)そこらへんがはっきりするかもしれないと思っている。

私がこの巨大な北東壁の写真を見たのが今から十年ほど前の内田良平さんの写真集で、たしか山の名前は「パナヨトゥパ」となっていたと思う。その頃はこのロールワリン山群はコンデリのみが許可峰リストに入っている程度だった。

2001年からネパール政府は登山規制を大幅にゆるめ、一気に100以上の山が解放され、翌年春にはテンカンポチェ峰に登山隊が入ったことを知る。その嚆矢はフランス隊であったが、ターメ先の大岩壁と書いてあったから、あの写真の「パナヨトゥパ」が実は「テンカンポチェ」であることはすぐ判った。

ネパールでの雪崩れ遭難が他の国に比べて多いことを知っている私は、取り付き手前が雪崩の巣で岩稜に取り付けなかった、という報告が4隊の内3隊を占めるアンナプルナ3峰南岩稜と、実際この目で見て雪崩に遭わずには済みそうもないピーク43がともに登られて、(半分ホッとして)この氷河のない、もし降ってもあまり危険の無さそうな岩壁主体の山を選んだのは間違いではなかったと思っている。もし今回この天候で前記のどちらかの山に向かっていけば、まず生きては帰れなかったろう。だがこの壁だってもし今回5日早く壁に取り付いていればたぶん北東壁に入り込んでいて、北壁とは比べ物にならない壁全体規模の巨大な雪崩に吹き飛ばされていたであろうことは間違い無い。



チョオユー（第一ビヴァーク地より）

結果的に（運よく？）天候に追い返されたわけだが、まあ長くこんなことをしていれば二度や三度はこういった目に遭うこともあるわけだ。命に猶予をもらったことを山の慈悲と受け止め、神に感謝しなければならない。

最初このネパール遠征を計画したときは所属する会に同行者がいなくて、こりゃ単独じゃのーと思ったが、幸いプーでしかもヒマラヤ他海外遠征の経験があり、ネパールから帰って間のない松島に声をかけたところ、ほとんど後先のことを考えないで（考えた形跡がない）快諾の返事があった。

彼は東京都岳連が毎年主催している「長谷川カップ」という（山中72km、高差1500mを一昼夜かけて走る）山岳マラソンに参加し、14時間、2000人中121位に入る体力の持ち主であったが、岩登り特に冬の岩や氷壁はあまり経験がなかった。岩壁のルート開拓と冬壁の登攀がこなせるように、この希な素材を鍛えるために一年半を費やした。前年7月、あの宮島での事故のとき私は彼の背に負われて（いくら軽いとはいえ大怪我をした男を当然のように一人で担ぎ下ろしたのだ）この男とならあの壁はやれると確信したのだった。

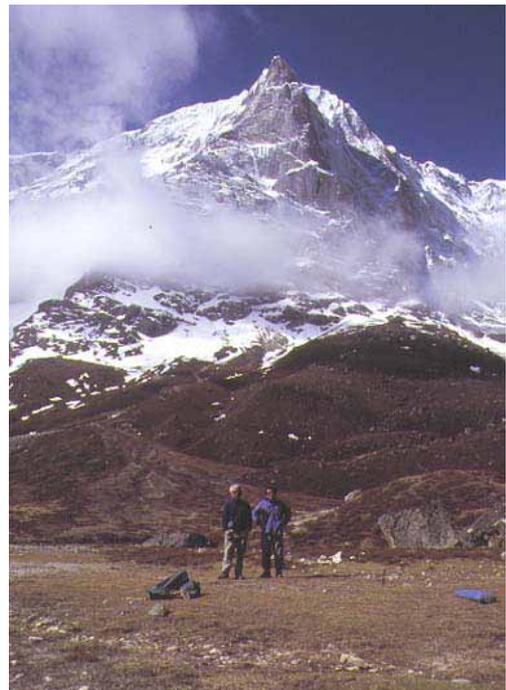
そして遠征で彼は期待以上の働きをしてくれたが、ついにその実力を発揮させてやることは出来なかった。忸怩たる思いである。だが私にとって「生涯のベストフレンド」という果報を得たことは登山の成功以上のものがある。遠征は計画から帰国して報告書をだすまでのそのプロセスすべてが「遠征」であ

り、結果は「いい遠征だったか」どうか、なのである。今回も登山をしている中でなにかのおり鳥肌の立つような至福を覚えることがあった。登攀の最中であったり、シュラフの中であったり、ガスの切れ間に壁や遠くの峰々がのぞいた時であったりしたが、それらはきっと「天の恵み」だともう。



なんぼーでも担ぐポーターひろし！

「大事に使やあ一生使える命じゃけんのー」という三好さんの名言？を胸に、己の実力を秤りさらに研鑽を重ねていけば、その先にまた何かが見えてくると思うのだ。



ベースをたたんで

支援者名簿

(順不同・敬称略)

| | | |
|---------------------------------|--------------|----------|
| JAC 海外登山基金 | (株)サタケ | (株)明治乳業 |
| JAC 広島支部 | ヤッホー | 広島県山岳連盟 |
| 青木 巖 | 山田雅昭 | 杉村 功 |
| 京才 昭 | 大西 保 | 中村 広 |
| 長田健三 | 谷野 彪 | 清瀬祐司 |
| 羽奈傳 | 姫島正和・緑 | 加藤威海 |
| 堀内輝章 | 佐々木弘磨 | カメラのキタムラ |
| 尾道憲二 | 松田治・節子 | 池田勝彦 |
| 清水正弘 | 福永やす子 | 兼森志郎・路子 |
| 大津二三子 | エリザベス・ホーリー | マハビール |
| NTT ネオメイト中国 113 お客様センタ・設備ビジネス本部 | 広島支店 NW 設備運営 | |
| 好日山荘 | アシーズブリッジ | ナカシン |
| 中野正義・晃子 | 加藤弘・康子 | 山崎 孝 |
| 甘党の店たむら | 祖田 仁 | 水口勝・早苗 |
| 伊藤祐道 | 吉岡好英 | 石田 亮 |
| 郷地三千春 | 田内 實 | 青木泰弘 |
| 亀井且博 | 久保京司 | 田中俊夫 |
| 山本登一 | 中田敏之 | 山田昌三 |
| 井上好訓 | 尾添正夫 | 溝手康史 |
| 水藤牧子 | 児島 修 | 木原めぐみ |
| 大前恒雄 | 榎本頼人 | 金本秀三 |
| 久保信義 | 宮重栄作・直子 | 三原 宏 |
| 畠山参四郎 | 岡本良治 | 吉村光俊 |
| 安藤和巳 | 坂本博信 | 竹本美保 |
| 武田和美 | 三谷和臣 | 横山正雄 |
| 赤井美穂 | 多賀谷重子 | 浜田嘉之 |
| 神庭 進 | 坂口佳史 | 中島 聡 |

テンカンポチェ峰 (6500m) 北東岩稜報告書

| | |
|----------------------|---|
| 2005年11月1日発行 | 、 |
| 発行者：広島メイプルピース登山隊2005 | 、 |
| 編集者：名越 實 | 、 |